



学校法人 城西大学

<http://www.josai.jp/>

東京紀尾井町キャンパス
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
TEL. 03-6238-1300

城西大学
城西短期大学 <http://www.josai.ac.jp/>

坂戸キャンパス
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
TEL. 049-286-2233

城西国際大学 <http://www.jiu.ac.jp/>

東金キャンパス
〒283-8555 千葉県東金市求名1 番地
TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
TEL. 04-7098-2800

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

2015

JOSAI UNIVERSITY

JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY

JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人 城西大学



大学の概要

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を有し、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房の4つのキャンパスを展開する国際総合大学です。
 エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

- 経済学部 経済学科
- 現代政策学部 社会経済システム学科
- 経営学部 マネジメント総合学科
- 理学部 数学科
- 化学科
- 薬学部 薬学科(6年制)
- 薬科学科(4年制)
- 医療栄養学科
- 大学院 経済学研究科
(経済政策専攻修士課程)
- 経営学研究科
(ビジネス・イノベーション専攻修士課程)
- 理学研究科
(数学専攻修士課程)
- 理学研究科
(物質科学専攻修士課程)
- 薬学研究科
(薬学専攻博士課程)
- 薬学研究科
(薬科学専攻博士前期課程・博士後期課程)
- 薬学研究科
(医療栄養学専攻博士前期課程)
- 別科 日本語専修課程
- 日本文化専修課程

城西国際大学

東金キャンパス

- 経営情報学部 総合経営学科
- 国際人文学部 国際文化学科
- 国際交流学科
- 福祉総合学部 福祉総合学科
- 理学療法学科
- 薬学部 医療薬学科(6年制)
- メディア学部 メディア情報学科
- 環境社会学部 環境社会学科
- 看護学部 看護学科
- 大学院 人文科学研究科
(国際文化専攻修士課程・女性学専攻修士課程・比較文化専攻博士後期課程・グローバルコミュニケーション専攻修士課程)
- 国際アドミニストレーション研究科
(国際アドミニストレーション専攻修士課程)
- 経営情報学研究科
(起業マネジメント専攻修士課程・同博士後期課程)
- ビジネスデザイン研究科
(ビジネスデザイン専攻修士課程)
- 福祉総合学研究科(福祉社会専攻修士課程)
- 薬学研究科(医療薬学専攻(博士課程 4年制))
- 留学生別科 日本文化・ビジネス専修課程
- 日本語専修課程

安房キャンパス

- 観光学部 ウェルネスツーリズム学科

城西短期大学〈城西ベースカレッジ〉

坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス

- ビジネス総合学科

東京紀尾井町キャンパス
 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26
 TEL. 03-6238-1300

坂戸キャンパス
 〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1
 TEL. 049-286-2233

東金キャンパス
 〒283-8555 千葉県東金市求名 1 番地
 TEL. 0475-55-8800

安房キャンパス
 〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717
 TEL. 04-7098-2800

CONTENTS

3 理事長 緒言
 次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み
 大学の社会的責任を果たすために

学校法人城西大学創立50周年事業

5 創立50周年記念コンサート

6 創立50周年記念式典

7 グローバル・レクチャーシリーズ

11 特別講演会・イベント・学会(創立50周年特別講演会)

16 施設・設備

国際社会への貢献

18 広がる国際交流

地域・社会貢献活動

25 産・官・学連携

27 地域との交流・連携 - 埼玉・坂戸地域の活性化

30 地域との交流・連携 - 千葉・東金・鴨川地域の活性化

次世代育成 / 文化・スポーツ振興

33 文化・スポーツ・メディア振興

36 子どもたちとともに

38 建築賞受賞

39 美術館

41 Message

42 編集後記

各記事タイトル横のロゴマーク

: 主に城西大学関連

: 主に城西国際大学関連

の活動の紹介です。



学校法人城西大学
理事長
水田宗子

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み 大学の社会的責任を果たすために

2015 JOSAI UNIVERSITY
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY
JOSAI JUNIOR COLLEGE

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に4つのキャンパス(紀尾井町、坂戸、東金、鴨川)において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域・社会貢献、文化振興・文化資源保存活動、国際社会への貢献など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。

城西大学は2015年に創立50周年を迎えました。2011年に本学は、幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材を育成し、アジア・世界でのリーディング・ユニバーシティになることを中期目標《J-Vision》として掲げました。この目標の実現に向けて、全学一丸となって取り組んでいます。

2015年度におけるこれらの代表的な取り組みについて本冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

地域・社会貢献活動 学校法人城西大学各キャンパスにおいて、地域の社会や文化・経済・教育・環境保護などに貢献する活動を幅広く行なっています。また、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を学内・外で開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。

城西大学では、創立50周年に向けて、地域・行政と連携して教育・研究・社会貢献を目指すプロジェクト「JCLIP」をスタートしてさまざまな活動を行うとともに、多くの記念行事等を行いました。

城西国際大学は、1年を通してさまざまな学術シンポジウムや国際交流活動、各種の地域イベント等を積極的に展開しました。高円宮殿下記念スポーツパークにおいては少年サッカー大会を行い、地域振興に貢献しています。

産学官連携では、日活やエイベックス・プランニング&デベロップメント社、サンミュージック等との提携により、本学ならではの特長ある次世代人材育成プログラムを数多く推進しています。

さらに、政策提言活動として、本学東京紀尾井町キャンパス地下ホールにおいて「ヴィシェグラード4カ国(V4)+日本 科学技術セミナー」が、外務省、V4諸国の在京大使館、本学の共催により開催され、今回で4回目となりました。

今年は、城西大学坂戸キャンパスに、新薬学部棟と水田三喜男記念館を、また城西国際大学の東金キャンパスと安房キャンパスにはそれぞれ国際留学生寮となる「JOSAI I-House グローバル・ヴィレッジ」を建設いたしました。水田三喜男記念館では、創立者の志を知るための資料の展示に加え、様々な活動が行える多目的ラウンジスペースを備えており、国際教育や地域連携の拠点として学生のみならず地域の方々にも広く開放される予定です。またグローバル・ヴィレッジには、多くの留学生や日本人学生が、国境や学部を越えて友情を培い、仲間との共同生活の中で自立心を養う場となります。生涯の友と共に考え、イベントや行事を企画・実行し、大きく成長できる場となることを期待しています。

なお、東京紀尾井町キャンパスは一層拡充され、5棟を有し、本学が取り組む「幅広い教養と深い専門性を持ち、問題解決にあたる国際的な人材育成」のさらなる強化と国際教育の充実を図っています。

国際社会への貢献 国際性・専門性を備えたグローバル人材の育成を目指して、世界各地の大学と教育ネットワークを結び、各種の国際教育プログラムを積極的に実施しています。

その中でも、本学は特に中欧ヴィシェグラード4カ国(チェコ・ハンガリー・ポーランド・スロバキア)とアセアン諸国との間の教育交流を強化しており、昨年度もこれらの地域の大学と新たに学術交流協定を締結し、国際交流を通じたグローバル人材育成に力を入れてきました。

また2015年7月には、アジアを9カ国14大学から約150名の学生が参加した「アジア・サマープログラム」を本学の坂戸キャンパス、東金キャンパス、安房キャンパスの3キャンパスで実施いたしました。これは、3週間という期間中、留学生と日本人が寝食を共にする合宿形式のプログラムとなっており、日本人の学生にとっては日本にいなから留学先のような日々をおくれる大変魅力的なプログラムとなっております。

文化振興・文化資源保存活動 学校法人城西大学は、両大学に水田記念美術館を有し、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展などを催しており、多くの方々にご来場いただいております。そして、紀尾井町キャンパス3号棟には、数々の貴重な化石標本を収蔵する「大石化石ギャラリー」も開設しています。

また、2006年にはじまった、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々と一緒に、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

各キャンパスや施設の景観にも心を砕き、各キャンパスの建物や美術館や旧水田家住宅などにおいて、国内外で多くの建築賞を受賞しています。

そして、これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に社会に貢献し、次世代に文化を伝え、人材を育成するとともに健康で豊かな暮らしを実現するために大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについてご理解いただければ幸いです。

2016年3月

学校法人城西大学
理事長

水田宗子

創立50周年記念コンサート

創立50周年記念コンサートを開催・ハンガリーとの交流を祝して

城西大学創立記念日の2015年4月20日、清光ホールで創立50周年を記念したコンサートが開かれました。

2007年にブダペスト商科大学と学術交流協定を結んで以来、本学とハンガリーとは多くの学生が行き来して交流を深めています。記念コンサートは、ハンガリーに関係の深い演奏家の方々を招いて開かれました。

学校法人城西大学は、2007年1月にブダペスト商科大学と学術協定を締結して以来、ハンガリーとは、さまざまな交流を行ってまいりました。

2009年12月には、当時の大統領であるショーヨム・ラスロー閣下がご来学され、城西大学・城西国際大学の学生宛に記念講義をいただき、親しく学生交流も行ってくださいました。また、2013年には、オルバーン・ビクトール現首相がご来学され、城西大学の名誉博士記を差し上げると共に、両大学学生宛記念講義を行っていただきました。

大統領のご来学を記念して設立した水田ハンガリー奨学金制度はV4各国の学生を対象とした奨学金制度へと発展し、これまでにハンガリーからの66名を含む113名の留学生に支援を行っております。大変優秀な学生たちが、本学で学び、大使館、国際関係機関、また日本の会社で就職をし、グローバルな活躍をしております。

また、2014年オルバーン首相のご来学時には、我が国でも他に例を見ない中欧ヨーロッパに関する専門研究機関として城西中欧研究所を設立いたしました。同研究所はハンガリー教育省と提携して同国の大学から研究者2名を受け入れており、国際ヴィシェグラード基金 (International Visegrad Fund) の助成金を獲得しV4各国の大学院生をパネリストとして招聘したV4+日本学生会議を毎年主催するなど、同地域と日本の様々な面での学術的な交流を推進しています。

日本人の父とハンガリー人の母を持つ金子三勇士さんのピアノ演奏によるショパン「ポロネーズ第6番変イ長調『英雄』」からコンサートはスタート。ブダペスト生まれのコハーン・イシュトヴァーンさん(クラリネット)、半田美和子さん(ソプラノ)、セルダヘイ大使の夫人で友情出演のセルダヘイ玲子さん(ピアノ)によって、リストやバルトークの作品をはじめ、中田喜直作曲の日本の歌曲やアンコールの滝廉太郎作曲「花」など14曲が披露されました。

日本ハンガリー友好協会の猪谷晶子専務理事や協会の会員の皆さまや地域の方々、教職員や学生・留学生など約500人が、晴れやかに美しい演奏に聴き入りました。



理事長挨拶



冒頭挨拶をするセルダヘイ大使



コンサートでの連弾



コンサート全景

創立50周年記念式典

学校法人城西大学 創立50周年記念式典が執り行われました

2015年10月31日、学校法人城西大学は創立50周年記念式典を埼玉県坂戸市の城西大学坂戸キャンパス内の総合体育館で執り行いました。記念式典には高円宮妃久子殿下のご臨席を賜りました。海外の約50校の提携姉妹校の総長・学長・教授、ハンガリーやポーランド、ブルガリアの駐日大使、国会議員、自治体の首長・議員、団体や協力企業の関係者、城西短期大学と姉妹校の城西国際大学を含めた同窓会員や教職員・学生代表、地域の方々など総勢約1300人が参加して、半世紀の節目を盛大に祝いました。

式典に先立ち、高円宮妃殿下の国内外にわたる学術文化発展のための優れたご業績と、女性リーダーとして日本国を代表した活動に基づく国際交流の推進、本学の国際教育活動に対する多大なご貢献に感謝して、名誉博士記を贈呈いたしました。

水田理事長は式典の式辞で、創立者の水田三喜男の建学の精神「学問による人間形成」やこれまでの大学の歩みに触れ、「私たちは、これまで推進してきた国際社会と地域社会の連携による人材育成の新しい一歩をさらに踏み出していきたい」と語り、「地域の皆さま方、海外の大学の皆さま方からいただいたご支援が最も大切なものであったことを深く心に感じています。さらに多くの方々の期待に応えられる大学になるよう努力してまいります」と結びました。

高円宮妃殿下は、「私たちの祖父母や親の世代が多くの犠牲を払い、懸命に努力したからこそ、今日の平和があり、海外との友好関係があります。先人たちへの敬意と感謝の気持ちを携えながら、私たちが次の世代へと駅伝の襷のようにしっかりとつないでいかなくてはなりません。現在城西大学ならびに城西国際大学で学ぶ若い人たちには、日本の外に目を向けて世界とともに歩んでいくための力を身に付けていただくことを期待しております」とお話しになりました。

在校生を代表して、現代政策学部3年の高野光一君と大学院薬学研究科1年の小林由希さんが「先輩方が築かれた伝統を大切にしながら世界に広がる城西の輪を、これからの50年においても、さらに広げていく使命を感じている」「建学の精神をさらに高めていくことを約束します」と「誓いの言葉」を披露しました。安倍晋三首相からの祝電の披露に続き、学歌斉唱、くす玉割りが行われ、式典を終了しました。

つづいて祝賀会が行われ、韓国・韓南大学総長の金炯泰氏は聖書を引ながら「我々も協力と交流を通じて日韓両国の若者が互いの文化を尊重し、学問的に協力し合いながら東北アジアの発展に大きく貢献することを期待しております」と述べられました。アトラクションでは、韓国の東西大学教授重唱団が韓国の歌曲や日本の「ふるさと」「荒城の月」など5曲を披露し、祝賀会に花を添えました。



50周年記念式典が華やかに開催されました



お言葉を述べられた高円宮妃殿下



会場ようす

グローバル・レクチャーシリーズ

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ開講

学校法人城西大学では、創立50周年記念事業の一つとして、創立者水田三喜男の名前を冠した、水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズを開講しております。

このシリーズでは、戦後の日本の経済発展、日本の国際地位の向上に力を尽くした創立者の原点に立ち戻り、国内外から世界的に影響のある方、優れた研究業績を残された方などにご講演いただき、広く社会へ知の還元を図るとともに、次代を担う若者たちに向けた貴重なメッセージも頂戴しております。

今後もグローバル・レクチャーシリーズを継続して開催し、日本文化、経済および教育への新たな視点の提供と日本を含めた多国間の文化・経済交流のさらなる活性化への一助となることを大いに期待しております。

水田三喜男記念「グローバル・レクチャー」シリーズ

第1回	マハティール・ビン・モハンマド氏 (マレーシア元首相) "A message to Future Leaders & Global Citizens"
第2回	エズラ・F・ヴォーゲル氏 (ハーバード大学名誉教授) "East Asia in the Next Fifty Years"
第3回	小林誠氏 (ノーベル物理学賞受賞・理学博士) 「反物質—素粒子から宇宙まで—」
第4回	鈴木敏夫氏 (スタジオジブリ プロデューサー) 「日本から世界に広がるアニメ：芸術、技術、プロダクション」
第5回	米倉弘昌氏 (日本経済団体連合会名誉会長・住友化学株式会社相談役) 「民間の力で日本経済の再生・復活を～世界の中で成長し続ける」
第6回	小林忠氏 (岡田美術館館長・国際浮世絵学会会長) 「水田コレクションと浮世絵の魅力」
第7回	エリザベス・M・デイリー氏 (南カリフォルニア大学映画テレビ学部学部長) "An Argument for the Cinematic Arts in a 21st Century University"

マハティール・ビン・モハンマド氏(元マレーシア首相)講演会
「Enhancing Knowledge for Peace: A message to Future Leaders & Global Citizens (平和への知恵—未来のリーダー・国際市民へのメッセージ)」

2015年5月21日、元マレーシア首相のマハティール・ビン・モハンマド氏をお招きし、講演会「Enhancing Knowledge for Peace: A message to Future Leaders & Global Citizens (平和への知恵—未来のリーダー・国際市民へのメッセージ)」を、東京紀尾井町キャンパス地下ホールで開催しました。

また講演会を記念して、マハティール氏に本学名誉博士号を授与しました。

マハティール氏はマレーシア第4代首相。開業医から政治家に転じ、1981年から2003年までの22年間、マレーシアでは最長の首相を務めました。アジアを代表する知日のリーダーで、欧米諸国ではなく日本の経済成長を見習おうという「ルックイースト(東方)政策」を唱え、長期に及ぶ強力なリーダーシップにより、マレーシアの国力を飛躍的に増大させました。

今回の講演会は学校法人城西大学のマレーシア訪問団が今年1月、マレーシアを訪問した際にマハティール氏の自宅を表敬訪問。「グローバル・レクチャー」シリーズへの登壇を依頼し、快諾を得たことから実現しました。

マハティール氏は講演で「マレーシアは5つの国と国境を接し領土問題を抱えているが、国際司法裁判所の判断に従って戦争を起こすことなく解決してきた」と述べたうえで、「日本は他国との争いに戦争という手段を使ってはならない。戦争は最大の犯罪という価値観を世界に広めなければならない」などと訴えられました。

ホールはアジア関連団体や政府の関係者、教職員や学生・留学生らで満席。両大学のサテライトでも学生らが、アジアを代表するリーダーの貴重な話に熱心に聞き入りました。



講演するマハティール氏

グローバル・レクチャーシリーズ

エズラ・F・ヴォーゲル氏(米国・ハーバード大学名誉教授)講演会
「East Asia in the Next Fifty Years (東アジア: これからの50年)」

2015年6月13日、米国・ハーバード大学名誉教授のエズラ・F・ヴォーゲル氏をお招きし、講演会「East Asia in the Next Fifty Years (東アジア: これからの50年)」を、城西大学坂戸キャンパス清光ホールで開催しました。

また講演会を記念して、ヴォーゲル氏に本学名誉博士号を授与しました。

ヴォーゲル氏は、1958年にハーバード大学で博士号(社会学)を取得後、日本語と日本の家族関係の研究のために来日して2年間滞在しました。1972年に同大の東アジア研究所長に就任。日本でベストセラーとなった「ジャパン・アズ・ナンバーワン」を79年に発表しました。最近10年以上を費やして執筆、2013年に発表した「現代中国の父 鄧小平」も話題となりました。また今回の講演会は、比較文学研究者として滞米生活が長かった水田理事長が、旧知のヴォーゲル氏に依頼して実現しました。



講演するエズラ・F・ヴォーゲル氏

講演会でヴォーゲル氏はベルリンの壁崩壊や天安門事件のあった1989年の前後25年に分けて、日本と中国、アメリカの政治、経済、社会の変化をたどりました。そして今後の東アジアを展望するポイントとして「経済成長の継続」「環境問題の悪化」「国際交流の拡大」を挙げました。そのうえで、アメリカは「中国と環境問題で協力しなければならぬ」と指摘。経済成長を遂げ近隣諸国と摩擦を起こしている中国に対しては「低姿勢の外交政策を取るべきだ」と提言しました。また、日本については「もっと自然な英語を学ぶ必要がある」と述べて会場の笑いを誘った後、韓国を念頭に「隣の国と仲良くするためにもう少し我慢する必要がある。国の代表は思いやりと責任感を」と結びました。

小林誠氏(ノーベル物理学賞受賞者・日本学術振興会学術システム研究センター所長)講演会
「反物質—素粒子から宇宙まで—」

2015年7月9日、ノーベル物理学賞受賞者で日本学術振興会学術システム研究センター所長の小林誠氏をお招きし、講演会「反物質—素粒子から宇宙まで—」を、城西大学坂戸キャンパスの清光ホールで開催しました。

小林氏は1944年、愛知県生まれ。素粒子理論を専門とする理論物理学者で、高エネルギー物理学研究所(現・高エネルギー加速器研究機構)教授や、高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核研究所所長などを歴任。素粒子の世界に存在する「破れ」と呼ばれる非対称性の理論化に取り組んだ功績で、2008年、益川敏英・名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構長や南部陽一郎・米国シカゴ大学名誉教授とともにノーベル物理学賞を受賞されました。



講演する小林氏

小林氏は講演で、粒子から出来る物質の構造の説明を手始めに粒子に対する反粒子の概念とその発見の歴史に触れ、ノーベル賞の対象となった「CP対称性の破れ」を説明する理論を解説されました。また宇宙の始まりのビッグバンにも言及。高温、高密度の宇宙の始まりでは粒子と反粒子が共存しているが、冷えるにしたがって反粒子がなくなって粒子だけの宇宙になるとして、「我々のモデルでは(宇宙の進化は)説明できない。未知の破れのメカニズムが存在するのではないか」と今後の研究の方向性を示されました。

講演に引き続き、元文部科学省事務次官で本学大学院センター長の小野元之理事とのミニ対談も行われ、小林氏はノーベル賞授賞式でのエピソードも披露。日本の基礎研究の将来について「若い人が頑張らないと高い日本の研究水準は維持できないのではないか。目の前の自分のやっていることを信じてやってほしい」と結ばれました。

グローバル・レクチャーシリーズ

鈴木敏夫氏(スタジオジブリ代表取締役プロデューサー)講演会
「日本から世界に広がるアニメ:芸術、技術、プロダクション」

2015年7月10日、スタジオジブリ代表取締役プロデューサーの鈴木敏夫氏をお招きし、講演会「日本から世界に広がるアニメ:芸術、技術、プロダクション」を、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。

鈴木氏は1948年、名古屋市生まれ。1972年慶応義塾大学文学部を卒業後、徳間書店に入社。「週刊アサヒ芸能」記者、「アニメージュ」編集長を経て、スタジオジブリに入社しました。高畑勲、宮崎駿作品をはじめとするジブリ作品をプロデューサーとして支えてきました。主な作品に「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」「崖の上のポニョ」「風立ちぬ」「かぐや姫の物語」などがあります。

今回の講演は、本学の日本・アジア映像研究センター長である水田リビット堯氏(南カリフォルニア大学映像学部教授)がインタビュアーとなって進行し、鈴木氏はプロデューサーの仕事について「何でも屋だが、一番は監督の味方になって信じてやっていく、その環境を整えること」と述べました。創作については「企画会議は一度もやったことがなくて、日常の会話や雑談の中から企画が生まれてくる」と語り、「風の谷のナウシカ」や「ハウルの動く城」「崖の上のポニョ」などの創作秘話を披露しました。

海外でのジブリアニメの反応の違いや好きな映画にも言及。「一区切りがついたので、影響を受けたウディ・アレンのビデオを集めている」と述べました。

質疑応答で、「先生の原動力は何ですか」という学生の質問に、鈴木氏は「一人では何もできない。仲間を見つけて一緒にやる。仲間の存在はすごく大きい」と述べ、「僕と宮崎の場合は、お互い負けず嫌いで、この人に負けるかという気持ちでどっかにある。それが原動力ですね」と付け加えて、会場の笑いを誘いました。



スタジオジブリの鈴木敏夫氏(右)

米倉弘昌氏(住友化学相談役、日本経済団体連合会名誉会長)講演会
「民間の力で日本経済の再生・復活を～世界の中で成長し続ける」

2015年10月1日、日本経済団体連合会名誉会長の米倉弘昌氏(住友化学相談役)をお招きし、講演会「民間の力で日本経済の再生・復活を～世界の中で成長し続ける」を、東京紀尾井町キャンパスで開催しました。

米倉氏は1937年、兵庫県神戸市生まれ。1960年、住友化学工業(現住友化学)入社。1965年、米デューク大学経済学博士課程修了。2000年、住友化学代表取締役社長就任。2009年、同会長に就任し、2010年から4年間、第12代の日本経団連の会長を務められました。

米倉氏は講演の冒頭、1950年代の石油化学の国産化に通産大臣として尽力した水田三喜男・創立者に言及して「水田先生の多大な功績に深い敬意と感謝の意を表します」と語られました。その上で、「日本経済の再生と持続的な成長を実現していくためには、イノベーションの加速と海外の活力を取り込むことが必要」と指摘し、「国を挙げての取り組みが、日本経済の本格的な復活につながるかどうか、成否のカギを握るのは、我が国の人材の力」と述べ、人材育成の必要性を強調されました。最後に米倉氏は、ホールや大教室で聴講する約250人の本学生に向けて「皆さんには、高い志をもって、失敗を恐れず、色々なことに挑戦し、自分自身を磨いていただきたい」と呼びかけました。

またこの日は、講演会に先立ち、中国、アイルランドをはじめとした大学との国際交流推進および本学グローバル教育の発展に多大なご支援をいただいている米倉氏に、本学名誉博士号を授与いたしました。



講演する米倉氏

グローバル・レクチャーシリーズ

小林忠氏(岡田美術館館長・国際浮世絵学会会長)講演会
「水田コレクションと浮世絵の魅力」

2015年11月21日、岡田美術館館長で国際浮世絵学会会長の小林忠氏をお招きし、講演会「水田コレクションと浮世絵の魅力」を、埼玉県坂戸市の城西大学清光ホールで開催しました。

小林氏は1941年、東京都生まれ。東京大学大学院人文科学研究科修士課程(美術史専攻)修了。東京国立博物館資料調査室長や学習院大学文学部教授、千葉市美術館館長などを歴任されました。主な著書に「江戸絵画史論」(サントリー学芸賞受賞)、「江戸浮世絵を読む」「江戸の浮世絵」「江戸の絵画」などがあり、浮世絵研究の第一人者として知られています。

小林氏は、浮世絵の魅力について「人間の基本的な感情に訴えるような表現が埋め込まれているからこそ、現代の私たちも楽しく慰められる」と解説。「文化の背景の違う海外において高く評価されるのは、心の奥底に懐かしさや親しさが浮世絵版画にはあるからだ」と述べられました。また、本学創立者水田三喜男が蒐集した浮世絵を中心とした絵画200点からなる「水田コレクション」の中に、写楽の作品9点を収蔵していることも、同コレクションの価値を高めていると強調、名作の数々をスライドによって紹介されるとともに浮世絵版画の変遷についてもお話いただきました。

質疑応答では、「浮世絵に魅了された現代アートはあるか」や「浮世絵版画は一枚の木で一度に何枚つくられるのか」など学生や一般の方々からの質問に丁寧に答えいただきました。



講演する小林氏

エリザベス・M・デイリー氏(米国・南カリフォルニア大学映画テレビ学部長)講演会
「An Argument for the Cinematic Arts in a 21st Century University」

2015年12月4日、米国・南カリフォルニア大学映画テレビ学部のエリザベス・M・デイリー学部長をお招きし、講演会「An Argument for the Cinematic Arts in a 21st Century University」を、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。

デイリー氏は、「映画、テレビ、ニューメディアとメディアが我々の生活に与える影響は非常に大きい。それを学ぶメディア学は、人文科学の中心的な役割を果たすべきだ」と強調。また、様々な著名な映画を挙げ、「映画は私たちの時代の文学である」とも述べました。最後に本学のメディア学部と言及し、「アジア、日本で唯一の場所だ。一緒にこの道(メディア学)を続けていきたいと思う」と結びました。

学生たちからの「業界の将来に不安がある」などとの質問に対し、デイリー氏は「映画、テレビ、アニメ、ニューメディアと仕事のチャンスは無限にある。リスクはあるが、やりたいのならやるべきだ。コンテンツによって見せる場所はそれぞれ違う。将来に悲観していない」と述べて学生を激励。大きな拍手を受けました。

当日は、映画関係者や教職員、城西国際大学メディア学部の学生ら約160人が、メディア学や映画の将来などについてのデイリー氏の貴重なお話に耳を傾けました。



講演するデイリー氏

特別講演会・イベント・学会(創立50周年特別講演会)

「World University President Forum 2015(世界学長会議)」を開催しました

2015年11月1日、学校法人城西大学創立50周年を記念し、東京紀尾井町キャンパス3号棟国際会議室において、「World University President Forum 2015」を開催しました。会議には城西大学の森本雅憲、城西国際大学の柳澤伯夫の両学長のほか、前日に坂戸キャンパスで開いた創立50周年記念式典に招いた海外の提携姉妹校約40校の学長や副学長らが参加。「グローバル社会と高等教育：新時代における日本の国際教育への提言」をテーマに論議しました。多くの大学の参加を得て、それぞれの国、大学が置かれている現状と今後の展望について積極的な意見交換が行われ、有意義で貴重な会議となりました。

会議の冒頭、水田理事長は挨拶で「日本は国際協力、経済、政治では一定のレベルに達したが、残念なことに国際教育は遅れている。国際教育の推進には、海外パートナー大学との協力や情報共有が必要。教育のグローバル化に対する取り組みや課題について共有し、また我々にアドバイスをいただければうれしい」と述べました。

この日は、吉武博通・筑波大学ビジネスサイエンス系教授(城西大学国際学術文化振興センター外部委員)が進行役を務め、2部構成で会議が行われました。

第1部

第1部では、ケルン大学(ドイツ)▽ブルゴーニュ大学(フランス)▽ケンブリッジ大学▽ブダペスト商科大学▽ニコラス・ロメリス大学(リトアニア)▽ウッチ大学(ポーランド)▽ブステイマ大学(ウガンダ)▽カリフォルニア州立大学ロングビーチ校▽貿易大学(ベトナム)▽マネジメント&サイエンス大学(マレーシア)▽東西大学校(韓国)▽天津外国語大学(中国)——の12大学の学長や副学長らがそれぞれ、自校における国際教育の取り組みや課題などを発表しました。

ブルゴーニュ大学のグレゴリー・ウェグマン副学長は「国際交流の中で、遠隔教育が重要になってくる。さらに他のプログラムと組み合わせで拡大していきたい」と指摘。ウッチ大学のヴォジミェルツ・ニキール学長は「1学期だけ留学生を受け入れる特別なプログラムを作ったところ、中国から220人が来てくれた」と実践例を紹介しました。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校のジート・ジョシー副学長は「2020年までに留学生を2倍にするため奨学金ファンドをつくり、世界から教員をリクルートしている」と明かしました。また、城西大学の建学の精神「学問による人間形成」に関連し、「グローバル教育には人格形成が必要。(城西大学は)50年前から分かっていた」と述べました。

東西大学校の張済国総長は、城西大学を含めアジアの12カ国20大学で創ったグローバルオンライン講義のシステム「GAA(Global Access Asia)」を紹介し、「アジアの域内問題にも焦点を当ててプログラムを作っていく。ぜひGAAに参加を」と呼びかけました。また、天津外国語大学の修剛学長は「これからの人間像には、国際的な視野や適応能力のほか、実践能力が必要。大学はそのためのプラットフォームを作らねばならない」と提言しました。

第2部

続く第2部では、1部の各大学の発言を踏まえて意見交換が行われました。

大学は研究機関なのか、教育機関なのかというジレンマや留学生受け入れの資金調達などの学内の問題にとどまらず、国の支援の必要性や域内全体の課題を指摘する声もありました。

吉武教授は「多面的かつ貴重な、深いお話をいただいた。城西大学や城西国際大学だけでなく、日本の大学にとってもとても勉強になるものだった。それぞれ置かれている状況は違うが、共通した課題が多いことも理解できた。これからも研鑽を積み、さらに皆さんの国、大学と議論をさせていただきたい」と結びました。



多面的で貴重な意見交換の場となりました



参加者全員による記念撮影

特別講演会・イベント・学会(創立50周年特別講演会)

清水義明先生による講演会「伊藤若沖の諸作品と仏教の『本覚思想』の主張」

2015年2月24日、紀尾井町キャンパスにおいて、創立50周年記念特別公開講座「伊藤若沖の諸作品と仏教の『本覚思想』の主張」をテーマに、日本美術史の第一人者である米プリンストン大学清水義明名誉教授より、江戸中期に活躍した絵師・伊藤若沖の諸作品の宗教的側面について講演していただきました。

清水名誉教授はスライドで若沖の数々の作品と涅槃図を紹介しながら「芸術的な若沖の諸作品に宗教的な意味合いが交差している。それが若沖作品の価値で本覚思想につながっていく」と説明されました。

会場からは驚きと感動の声があがっていました。



講演する清水義明名誉教授

ラーシュ・ヴァリエ氏による講演会「世界の中の俳句」

2015年3月27日、前駐日スウェーデン大使であるラーシュ・ヴァリエ氏の特別講演会「世界の中の俳句」を紀尾井町キャンパスで開催しました。

ヴァリエ氏は、日本の俳句や川柳を西洋に紹介した多くの文学者を紹介し「西洋の詩の中にも俳句の雰囲気を見つけることができる」などと例を挙げて説明されました。また、西洋の文学者や子どもたちの句を紹介し、「西洋の学校でも俳句を教えているが、子どもたちの句の中に俳諧のスピリッツやユーモアを感じることができる」と結びました。

ヴァリエ氏は、京都大学文学部国史学科で学び、ストックホルム大学から日本古代史の研究により博士号を取得し、現在は本学の特任教授に就任されています。



ヴァリエ氏による講演

天津外国語大学の修剛学長による講演会「大学のグローバル人材・高度職業人教育に関する取り組み」

2015年5月8日、天津外国語大学の修剛学長による特別講演会「大学のグローバル人材・高度職業人教育に関する取り組み」が、紀尾井町キャンパスで開催されました。

修学長は日本語教育が専門で、現在の中国の大学学長の中で唯一日本を専門とする学者です。中国の日本語教育の学会である中国日本語教育研究会の会長を務め、現在は中国教育部の外国語教育指導委員会・日本語委員会の主任、中国翻訳協会副会長の要職にあります。2011年9月には、修学長に城西国際大学の名誉博士号を授与いたしました。

修学長は、「グローバル人材の育成はこれからの大学の大きな方向性の一つ。また、中国では専門性を持った高度職業人の育成にも力を入れている。グローバル人材と高度職業人の育成は、中国と日本の大学の共通認識で目標でもある。中日大学間の協働には大きな可能性がある」と指摘しました。



講演する修剛先生

特別講演会・イベント・学会(創立50周年特別講演会)

スウェーデン・ウプサラ大学との合同シンポジウムを開催

2015年3月30日、紀尾井町キャンパス1号棟ホールで、スウェーデン・ウプサラ大学と合同シンポジウム「スウェーデンと日本における女性学および文学」を開催しました。パネリストとして本学から比較文学者で詩人である水田宗子理事長ら4人、ウプサラ大学からアン・オールベルク文学部長ら4人が参加しました。また、ヘレーナ・ドルノウシエク・ゾルコ駐日スロヴェニア共和国大使も参加、女性学の講座を持つ城西大学と城西国際大学の教職員や学生、留学生のほか、多くの研究者の皆さんや日本スウェーデン協会(会長・水田理事長)の方々約160人が熱心に聞き入りました。



ウプサラ大学との合同シンポジウム

この大学は1477年に創設された北欧最古の大学で、最も権威のある高等教育・研究機関の一つであり、15人の大学関係者(卒業生、教員など)がノーベル賞を受賞しています。

城西 日本・スロヴェニア シンポジウムを開催

2015年6月22日、紀尾井町キャンパスで「城西 日本・スロヴェニア シンポジウム『女性作家と女性映画監督：その歴史的意義』」が駐日スロヴェニア共和国大使館とともに城西国際大学メディア学部、ジェンダー・女性学研究所の共催で開催されました。

本学は、駐日スロヴェニア共和国大使館のヘレーナ・ドルノウシエク・ゾルコ大使のご支援によって、スロヴェニアの大学では初となる学術交流協定をノヴァ・ゴリツァ大学と結びました。

シンポジウムでは、大戦中はナチスの収容所、戦後はユーゴスラビアで投獄されながら人権のために闘ったスロヴェニアの女性、『女性作家と女性映画監督』特別講演会 アンゲラ・ヴォデ(1892～1985年)についてのドキュメンタリー映画『隠された記憶』(2009年)などをめぐって、映画や文学、フェミニズムの歴史的意義について討議しました。



『女性作家と女性映画監督』特別講演会

クリストフ・マルケ氏による講演会「フランスで賞賛された河鍋暁斎」

2015年7月17日、紀尾井町キャンパスで特別講演会「フランスで賞賛された明治の風刺画家 河鍋暁斎」を開催しました。クリストフ・マルケ日仏会館・日本研究センター所長が講師をつとめ、学生、教職員のほか「暁斎ファン」ら約160人が聴き入りました。

河鍋暁斎(1821～1889年)は、幕末から明治にかけて活躍した異端の画家。多くの戯画や風刺画を残しています。欧州では19世紀末に日本の代表的な画家として北斎に次いで賞賛されておりました。

講師のクリストフ・マルケ氏は、日本近世・近代美術史と出版文化史が専門で、編著に『日本の文字文化を探る一日仏の視点から』や『テキストとイメージを編む―出版文化の日仏交流』などがあります。マルケ氏は、フランスを中心に美術館、博物館などを現地調査し、「暁斎の足跡」を追い求めてきました。



「河鍋暁斎」についての特別講演会

特別講演会・イベント・学会(創立50周年特別講演会)

「Modern Poetry Event III 屋根に残った破れ靴～日中韓詩人たちの集い～」を開催

2015年11月6日、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールにおいて、「屋根に残った破れ靴～日中韓詩人たちの集い～」と題した座談会と詩・連詩朗読会「Modern Poetry Event III」を、思潮社の後援を得て開催しました。

詩人で比較文学者でもある水田宗子理事長をはじめ、中国を代表する現代詩の詩人・評論家の西川(Xi Chuan)氏や国際的に評価の高い韓国の文貞姫(Moon Chung-hee)さんや日本を代表する詩人合わせて10名が参加し、現代詩の表現と可能性、言語と翻訳などを巡って語り合い、作品を朗読しました。



朗読する西川氏

「屋根に残った破れ靴」という今回のタイトルは西川氏の作品の一部から取ったもので、中国では亡くなった人の靴を屋根に投げ捨てるという風習があるとされます。西川氏は座談会で「詩の読者は少なくなっているが、詩人の交流があることは幸せなこと。詩の存在は我々、現代人にとってとても重要なもので、詩人は未知の世界を探求し、発掘していく役割を果たしている」と語りました。

国際文化シンポジウム「TEXTURES of SOUND(音のテクスチャ)」を開催

2016年1月13、14日、前近代の日本文化における「音や声」をテーマとした国際日本文化シンポジウム「音のテクスチャ」(TEXTURES of SOUND)を、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催しました。学校法人創立50周年を記念し、城西国際大学日本研究センターとヨーロッパセンターが主催、国際人文学部と国際学術文化振興センターが共催しました。

このシンポジウムは、オーラリティ(声の文化)や音楽の果たす役割を探究することによって日本研究にどれほどの変革をもたらすことができるか―それを学際的に見きわめることをテーマに開催されました。

まず、各国で活躍する高名な日本研究者による先端的な研究成果の発表があり、オーラリティ(声の文化)や音楽の果たす役割などについて活発な意見交換が行われました。

コロンビア大学のハルオ・シラネ教授が「共同的記憶の形成における声、身体、音楽：中世日本の説話のメディア再考」と題して基調講演。シンポジウムを記念して琵琶奏者の川嶋信子さんが、『平家物語』から「祇園精舎」「福原落」「壇ノ浦」の3曲を披露しました。

この日は、アン・バーリントン駐日アイルランド大使やイシュトヴァーン・セルダハイ駐日ハンガリー大使、マグヌス・ローバック駐日スウェーデン大使や青柳正規文化庁長官ら多数の方々の出席をいただきました。また、研究者や両大学の教職員、学生らが参加しました。

最後に今回のシンポジウムの企画やプログラムの作成に尽力いただいたメリッサ・マコーミック教授が「研究者に皆さまには、近代以前の多様な美的環境における、音とイメージの接点、声と書かれた、あるいは印刷されたテキストの接点と音響的側面の探求という新しいテーマを高いレベルで取り組んでいただき感謝いたします」と結びました。



基調講演するシラネ教授



シンポジウムの総括をするマコーミック教授

特別講演会・イベント・学会(創立50周年特別講演会)

セルマ・ラーゲルレーヴ国際会議を開催

2015年11月20日、セルマ・ラーゲルレーヴ協会主催、城西国際大学、スウェーデン中央銀行ジュビレウム基金(RJ)共催で、「Lagerlöf in Japan: Between Modernity and Tradition」を開催しました。

このセルマ・ラーゲルレーヴは、代表作「ニルスの不思議な旅」でも広く知られており、1909年、女性としてスウェーデン人として初めてのノーベル文学賞を受賞しました。またラーゲルレーヴは、作家としてだけでなく、女性の解放運動でも活躍した象徴的な女性でもあり、スウェーデンにおいて、広く時代を超えて深く愛されています。

今回のシンポジウムでは、日本とスウェーデンの交流の中で、ラーゲルレーヴの再評価、また、ラーゲルレーヴ研究の国際的地平が広がり、日本、スウェーデンの関係がより深まるものとなりました。

シンポジウムポスター



「中欧研究とその東アジアネットワーク構築に向けて」シンポジウムを開催

2015年11月7日、東京紀尾井町キャンパス3号棟 国際会議場にて国際シンポジウム「中欧研究とその東アジアネットワーク構築に向けて」が開催されました。

このシンポジウムでは、スロヴェニアと東アジア地域における中欧研究者を集め、3部からなるプログラムで行われ、中欧という地域概念の再検討と東アジアにおける中欧研究者のネットワークの形成が目的とされました。

第1部「中欧とは」では、Peter Vodopivec 先生(現代史研究所、スロヴェニア)、大津留厚先生(神戸大学)、西成彦先生(立命館大学)による3つの報告がなされ、活発な議論が展開されました。

第2部「さまざまな中欧研究」では、林志弦先生(西江大学、韓国)、李今芸先生(国立暨南国際大学、台湾)、林温霜先生(北京外国語大学、中国)とLjuba Atanasova先生(南西大学、ブルガリア)、Boštjan Bertalančič先生(城西大学)による4つの報告がありました。いずれも最先端の多様な中欧研究でした。

第3部「東アジアにおける中欧研究」では、林志弦先生、李今芸先生、林温霜先生、飯尾唯紀(城西大学)の4名が各国の中欧研究の現状を報告し、ネットワークづくりに向けて議論が行われました。

シンポジウムには、国内外から多くの中欧研究者やゲオルギ・ヴァシレフ駐日ブルガリア共和国大使館特命全権大使もご参加いただき、東アジアにおける中欧研究者ネットワークへの強い関心がうかがえました。



挨拶されるゲオルギ・ヴァシレフ駐日ブルガリア共和国特命全権大使

城西大学50周年記念シンポジウム「自動車産業にみる国内外における展開」を開催

2015年11月27日、城西大学坂戸キャンパスにおいて、城西大学大学院経済学研究科と経済学部の共催による城西大学50周年記念シンポジウム「日本産業活性化の方向—自動車産業にみる国内外における展開—」が開催されました。

自動車産業研究者として、国内外で非常に著名な藤本隆宏先生と塩地洋先生に講演していただきました。両先生をお招きしたシンポジウムだったこともあり、学外からの参加者も加わり、非常に興味深い内容となりました。

講演終了後は、聴衆からの質疑応答も行われました。さらに、シンポジウム終了後も場所を移動して、両先生を交えた白熱した議論が行われるなど、非常に活発な議論が展開されました。



藤本隆宏氏の講演

施設・設備

「Josai I-House 安房グローバル・ヴィレッジ」が竣工

2015年9月1日、学校法人城西大学創立50周年事業の一環として、国際教育環境のさらなる充実を目指し建設された「Josai I-House 安房グローバル・ヴィレッジ」のオープニングセレモニーが行われました。

当日は水田宗子理事長をはじめとする大学関係者や地元鴨川市の長谷川孝夫市長、観光学部協力会、鴨川学生アパートオーナー会など地域の皆さまに加えて、大連理工大学の杜鳳剛先生、パリ東大学クレティユ校のエリック・ハーツラー先生やイタリア・デルビアンコ財団のコリンナ・デルビアンコ理事など海外のご来賓にも多数ご参列頂きました。

また、設計・建設にご尽力いただいた大田建築設計研究所の大田純穂代表ならびに施工を請け負われた清水建設株式会社の皆さまも見守る中、テープカット、定礎式を執り行い竣工を祝いました。

この「安房グローバル・ヴィレッジ」は建物で囲むように中庭が配置された構造が特徴的で、今後は学生同士や地域の皆さまとの交流などを深めることを目的にさまざまなイベントを実施していきたいと考えています。収容人数は101名で主に留学生を対象にした国際学生寮です。

「安房グローバル・ヴィレッジ」を有効に活用し、グローバルな視野を持った観光人材の育成と、地域とのさらなる交流の充実に努めてまいります。



中庭から「Josai I-House 安房グローバル・ヴィレッジ」を望む



中庭に執り行われた神事

「Josai I-House 東金グローバル・ヴィレッジ」が竣工

2016年1月27日、学校法人創立50周年事業の一環として、JOSAI I-House東金グローバル・ヴィレッジが東金キャンパスに隣接するPRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK(高円宮殿下記念スポーツパーク)内に竣工しました。

建物は地上5階建、寮室数43室、132人収容、外観は外壁アルミルーバーが編み込まれたレースのような表皮で構成され、様々な空間や機能の部屋を包み込んでいるのが特徴です。

ここで世界各国の学生達が共に生活し、多様な考えや価値観に触れ合う事で、よりグローバルな視野を持つ国際人材の育成を目指しています。

館内には「高円宮殿下ギャラリー」をはじめ国際交流活動の拠点となる「インターナショナルセンター」や、創立者・水田三喜男先生が創立した学校法人城西大学の50周年を記念した「創立者ギャラリー」(オープン時は高円宮家よりお借りした殿下のお写真を展示)などの施設も設けられています。



妃殿下にギャラリーをご案内する水田理事長



東金グローバル・ヴィレッジ外観

施設・設備

新薬学棟と水田三喜男記念館の起工式

創立50周年記念事業の大きな目玉である水田三喜男記念館と新薬学部棟の起工式が2015年10月6日に執り行われました。地鎮祭が行われ、工事の無事を祈願しました。

両施設とも米カリフォルニア大学ロサンゼルス校の阿部仁史先生と久米設計が設計監理し、施工は大林組によるものです。2017年3月の完成を目指します。

水田三喜男記念館は、2階建て延べ1800平方メートル。7月1日に総合体育館に仮オープンした展示室のほか、各国からの要人を含むVIPを迎えるゲストエリア、レセプションワークショップなど多様な活動を行うための多目的ラウンジを備え、国際教育や地域連携の拠点となるものです。

また、新薬学部棟は地下1階、地上9階建てで延べ1万1500平方メートル。アイソトープセンターと現在の6号館のあるほとんどの機能を担い、最先端の実験室や研究室を備えます。



水田三喜男記念館完成イメージ

JIUローズガーデンがオープン

2015年11月1日、千葉東金キャンパスに「JIUローズガーデン」がオープンしました。この庭園は城西国際大学創立20周年のお祝いとして企画され、このたびの学校法人城西大学創立50周年を祝い、水田宗子理事長への深い感謝の思いを込め、城西国際大学同窓会により寄贈されたものです。

715平方メートルの庭園には、約70種類、およそ570本の世界各国から集められた薔薇が植栽され、庭園中央部のエリアには、城西国際大学創立者である故・水田清子名誉理事長のお名前をいただき「Seiko Mizuta」と名付けられた薄いピンクの薔薇と、水田宗子理事長のお名前にちなんだ「Noriko Mizuta JIU25」という美しい濃いピンクのスペシャルローズが植えられています。この2種類の薔薇は、日本ばら会の富吉紀夫様によって育種され、2014年都立神代植物園で開催されたJRC (Japan Rose Concours) 国際ばらコンクール新品種コンテストの入賞作の榮譽を得て寄贈されたものです。

また、開園を祝い駐日ブルガリア共和国大使館から寄贈された貴重なダマスクローズも一緒に植えられました。今後、このローズガーデンが、本学の同窓生、学生をはじめ地域の皆さまや教職員、大学を訪問される皆さまの憩いの場となることを願ってやみません。



ローズガーデンでのテープカットの様子

坂戸キャンパスの食堂がJUカフェとしてリニューアルオープン

坂戸キャンパス第1食堂棟の1階の食堂が、2015年4月から、お洒落な「JUカフェ」として生まれ変わりました。JUカフェ（630席）は、水田美術館を設計した米エール大建築科のスニール・ボールド教授と大林組の設計部による設計で、企業や学校での健康サポートや施設等でのレストラン経営などを幅広く手がける「エムサービス」（東京都港区）が運営しています。

2015年4月4日の入学式当日にオープニングテープカットが行われ、水田宗子理事長は挨拶で「50周年記念事業の一つである食堂の改装がなり、大変うれしく思います。この食堂が長く私たちの大学の学生たちの健康と勉学生生活を支える場であるよう、食堂を世話し大切に育ててほしい」と呼びかけました。



JUカフェオープンのテープカット

広がる国際交流

アイルランド・リムリック大学と学術交流協定を締結

2015年3月18日、ブレンダン・ハウリン・アイルランド経済再生・公共支出改革大臣やアン・バリントン大使ら一行が、東京紀尾井町キャンパスを訪れ、ハウリン大臣による基調講演会および、アイルランドのリムリック大学と学術交流協定の調印式を執り行いました。

調印式は、ブレンダン・ハウリン大臣ならびに米倉弘昌前日本経団連会長立会のもと執り行われ、水田宗子理事長の歓迎の挨拶とリムリック大学の国際交流の責任者であるパトリシア・オフラハティー博士の御礼の挨拶に続き、水田理事長、オフラハティー博士、ハウリン大臣、米倉氏がサインをし、両大学で協定書を取り交わしました。

この調印は2013年12月、エンダ・ケニー アイルランド首相が来日された折に、米倉日本経団連会長（当時）との間で、日本とアイルランド共同で人材育成を行いましょとの約束がなされ、それをもとに両国において大学の選定をし、アイルランド側はリムリック大学、日本側は城西大学となったものです。このような経緯もあり、日本経団連から金原主幸・国際経済本部長、ならびに大使館からアン・バリントン駐日アイルランド大使も同席での調印式となりました。今回の協定書は、日本経団連のバックアップのもと、日本でのインターンシップが盛り込まれていることが大きな特徴です。本学にとっては、アイルランドの大学とは初めての協定締結となりました。

調印式に引き続き、ハウリン大臣による特別講演会が開かれました。「アイルランド経済再生の改革の重要性」をテーマに約30分にわたりご講演いただきました。ハウリン大臣は公務で多忙な中、多くの学

生の質問に熱心にお答えになり、留学生らと歓談して大学を後にされました。学術交流協定の締結や現職大臣の講演会をきっかけに、アイルランドの大学との交流や研究成果の情報交換など一層の促進が期待されます。



大臣、大使を歓迎して



学術交流協定を締結



講演するハウリン大臣

リムリック大学はアイルランド・リムリック市にある大学で、1972年創立。経営や教育、科学など6学部があり、約1万7000人の学生が学んでいます。アイルランドでは数少ない日本語の学科がある大学として知られています。

広がる国際交流

フランスの大学との交流が広がりました

学校法人城西大学のフランス訪問団が、2015年9月22日から27日まで、フランスを訪問しました。

今回の訪問は、新しい地域にある大学との協定締結、既存大学との交流の促進のため新たな研修プログラムを大学ならびに美術館等と調整することを目的としたもので、本学とフランスとの学術交流の促進に具体的成果を挙げることができました。

9月22日午前：パリ・エスト・クレティユ大学

共同教育として「ダブル・ディグリー1+1プログラム」の具体化の検討を進めることで合意。現在の経済経営関係の協力関係から、さらに拡大して大学院の1+1や他の学部との交流を推進することでも合意しました。

9月22日午後：フランス国立東洋言語文化研究所 (INALCO)

本学から、「世界の中の日本」プログラムの取り組みや今後、フランス国立東洋言語文化研究所の日本関係の先生方との交流を含め、本学との協力関係を依頼して快諾を得ました。

9月23日：リール・カトリック大学 訪問

本学から派遣するフランス語研修について、研修の担当であるMcGregor先生とともに日程や具体的なカリキュラムなどの協議を持ちました。大学院のSandri教授が手掛ける政策科学（食文化、サイバー・セキュリティを含む）に関する1+1等の調印を行うとともに、今後は幅広い大学院交流を進めることで合意しました。

Giorgini学長との面会では、グローバル化時代における日本の重要性と日本におけるパートナー大学として城西大学に大きな期待をしていること、さらに交流を発展させてほしいとお話されました。

9月24日：ギメ美術館 訪問

本学の学生のフランスにおける研修に際し、ギメ美術館での受け入れについて依頼しました。先方からは、本学が城西大学と城西国際大学で実施する講義「世界の中の日本」というテーマに、このギメ美術館は本当にふさわしいと思うと全面協力の申し出がありました。バックヤードや倉庫なども特別にお見せいただけとのことでした。

9月25日：ブルゴーニュ大学 訪問

Bonnin学長と学術交流協定を締結し、フランスの大学では4番目の締結が実現しました。

その後、短期、長期の教育交流について意見交換。また、本学が希望する短期学生研修について、早期に先方の受け入れの提案をいただくことになりました。

Bonnin学長も医学博士でいらっしゃることから、本学の薬学、看護、福祉、理学療法、など医療福祉関係の相互の関係性について話が弾み、大きな期待が寄せられました。



パリ エスト クレティユでのミーティング



リールにて大学院との交流のミーティング



ブルゴーニュ大学と調印

広がる国際交流

フランス・ブルゴーニュ大学の一行が来学

2015年12月2日、フランスのブルゴーニュ大学の一行が東京紀尾井町キャンパスに来学されました。

ブルゴーニュ大学は1722年創立、学生数2万7千人（留学生3千人）。パリの南東約300kmにあるディジョンの街を中心に、ブルゴーニュ地方に4つのキャンパスを持つ総合大学です。

2015年9月に本学訪問団がフランスを訪れた際、同大学との学術交流協定が締結されました。それを受け、今後の交流プログラム等を見据えた打ち合わせを兼ねて、ブルゴーニュ大学からの訪問が実現したものです。

両学は2日間にわたって大学・大学院レベルの学生交換を含む学生交流プログラムの立ち上げについて意見交換を行い、城西国際大学東金キャンパス、城西大学坂戸キャンパスを往訪しました。

2016年度には、具体的な学生交流が開始される予定です。



JUIにて茶道を楽しむ一行

フランス研修

城西大学・城西国際大学の学生20人は、2016年2月24日から3月7日の13日間、フランス研修を実施しました。この研修の目的は、姉妹校であるリール・カトリック大学でのフランス語研修に加え、欧州の現状を視察することです。リールはフランス最北端のノール地方の中心都市であり、パリから特急列車で1時間の距離にあります。また、ロンドンへも1時間半、ベルギーのブラッセルまではわずか35分で列車で移動できるなど、欧州のハブ基地としても重要な役割を占めています。

参加学生は毎日午前中は、各自のレベルに合わせたクラスで徹底してフランス語を学び、午後はリール市内や近郊の著名な美術館などを見学しました。また、リールの南西に位置し、かつては炭鉱として発展したランスも訪問し、炭鉱の閉鎖の後の地域再開発の現状を視察した後、地域議会で担当責任者から、石炭から新しいエネルギーへの移行の取組みの経緯と今後の方向性などを聴取しました。

研修の後半にはベルギーのブラッセルに、また帰路にはパリ市内の視察も行い、参加者にとって極めて充実した経験となりました。



フランス語研修風景



市役所前で

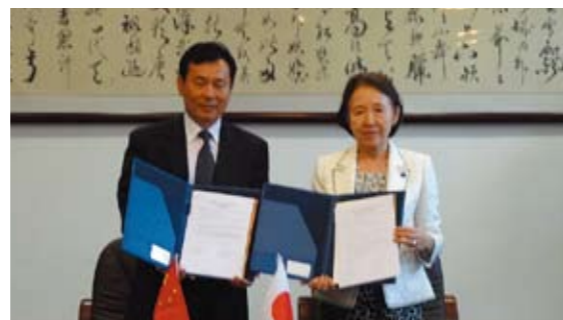
広がる国際交流

大連・瀋陽の姉妹校との交流／城西大連・東北学友会を訪問

・詩を通じて日中交流を図る

水田理事長を団長とする学校法人城西大学一行は、2015年5月30日から6月4日にかけて中国・大連市を訪れ、学校法人城西大学創立50周年記念城西大連・東北学友会第4回目の交流会を開催しました。

今回の訪問で大連外国語大学において、日中短詩協会後援による『日中現代詩をめぐって—「現代詩と翻訳」』と題した三部構成から成る国際合同シンポジウムを開催し、漢俳についての講演が陳岩先生(大連外国語大学)と、「河の女神の声」と題する深い詩の話が本学客員教授の吉増剛造先生(詩人)よりなされました。



協定締結 東北財経大学夏春玉学長と

翌日には大連市内「大連万和祥茶楼」において、北京から中国現代詩を代表する詩人の西川と瀟瀟の両氏、そして大連の詩人が10名、本学からは水田理事長、吉増剛造氏、田原氏とこちらも日本を代表する詩人が集い詩の朗読会が行われました。一人一人、魂を込めての朗読は、心ふるえるもので、一期一会の貴重な機会となりました。

・東北財経大学において包括協定を締結

6月2日、水田理事長を団長とする一行は大連市にある東北財経大学を訪問し、夏春玉学長らと会見し両学の間で包括協定を締結しました。

東北財経大学は1952年に設立され、財政税務学院、金融学院、経済学院、会計学院、法学院、旅游とホテル管理学院、国際経済貿易学院、国際商学院など25学部を有し、学生数が約1万9千人の中国の名門商科大学です。今後、本協定に基づき、両学で協議をしながら日中間の共同研究を進めると同時に、経営・福祉・メディア・観光・人文・環境の領域における大学院生(1+1)などの具体的な共同プログラムの推進が大いに期待されます。

・瀋陽東北大学にて趙継学長を表敬訪問

6月4日、東北大学を訪れ新しく就任された趙継学長を表敬訪問し、日中連携大学院における博士号取得の教育について深い感謝を寄せられました。また、日本への留学経験もある趙学長は、グローバルコミュニケーション大学院における連携教育についても大きな期待をしておられ、両学でよりよい人材育成をしていけるように支援を約束されました。

東北財経大学の夏春玉学長が来学

2015年10月15日、中国の東北財経大学の夏学長は張軍濤教授部長、張語辞国際交流所長、方愛郷教授とともに東京紀尾井町キャンパスに来学されました。

東北財経大学は、1952年に設立された中国の遼寧省大連市にある財務経済関係の学部を中心とする総合大学であり、財政税務学院、金融学院、経済学院、会計学院、法学院、観光・ホテル管理学院、国際経済貿易学院、国際商学院など計25の学部を有し、学生数は約1万9千人です。世界各国から数百名の留学生を受け入れています。

本学は、天津外国語大学の修剛学長よりご紹介を受けたことをきっかけに、2015年6月2日に東北財経大学と協定を締結しており、今後、大学院・学部レベルで教員・学生の交流を通じた協力関係を構築していく予定です。



関係者による記念撮影

広がる国際交流

北京大学、北京師範大学、首都師範大学、清華大学を訪問

学校法人城西大学の中国訪問団が、2015年12月22日から24日まで、北京大学、清華大学、北京師範大学と首都師範大学を訪問しました。

2015年に出版された水田宗子教授の『モダニズムと〈戦後女性詩〉の展開』(思潮社 2012)の中国版が、北京大学出版社より出版されたことを記念し、首都師範大学と北京大学においてなされ、講演会とパネル・ディスカッションに招待されました。

12月22日

北京大学の呉志攀副学長、李岩松副学長と面談、今回北京大学出版会から中国語訳が出版された『モダニズム戦後女性詩の展開』を中心に本学と北京大学の今後の具体的な交流について懇談がなされました。

12月23日

首都師範大学において『モダニズムと〈戦後女性詩〉の展開』の中国語出版を記念し、水田宗子教授による女性詩に関する評論についての講演会が開催されました。

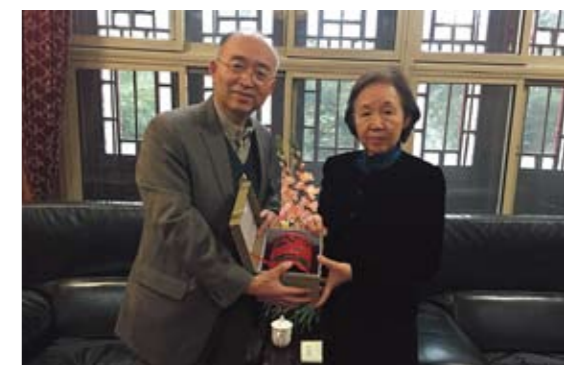
この水田理事長の講演は、中国では女性詩、フェミニズム批評という分野がこれからということもあり、北島先生や西川先生をはじめとする中国を代表する作家、詩人や学生たちが集まるなど、非常に注目度の高いものとなり、活発な質疑応答がなされました。

引き続き、北京大学において同じく『モダニズムと〈戦後女性詩〉の展開』の中国語訳の出版を記念し、「モダニズム」をテーマにしたパネル・ディスカッションが開催されました。これには、中国を代表とする詩人、作家の皆さん方がパネルとして約20名が登壇しました。

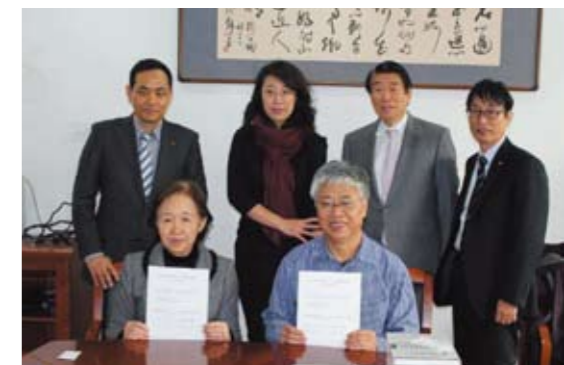
会の終了後、水田理事長に北京大学中国詩歌研究院の研究員の任命書が謝冕教授より手渡されました。また水田理事長と黄怒波センター副所長により、北京大学国際現代詩創作センターと本学国際現代詩センターの協力に関する覚書も調印しました。

また、一方で、23日に清華大学を訪問し、薛其坤副学長や国際教育センターの担当者と面会いたしました。また、同大社会科学院 柳舟見所長、張成崗副院長等と具体的協議を行うこととし、本学との今後の国際交流のあり方について親しく懇談しました。

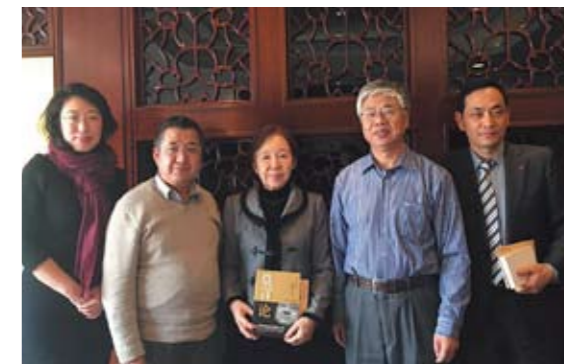
今回の訪問において、北京大学、清華大学、首都師範大学、北京師範大学との具体的な交流の推進がなされたことで、北京地域における大学間交流が大きく発展しました。



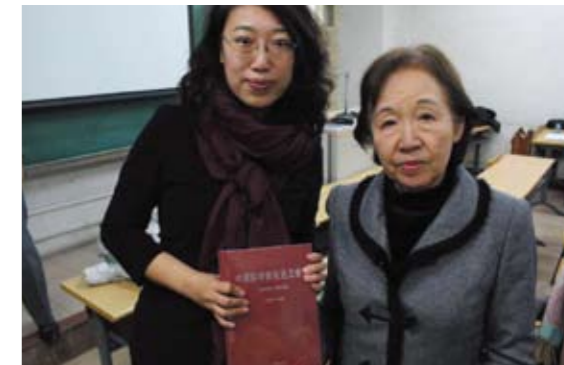
北京大学にて



首都師範大学にて



首都師範大学にて



首都師範大学の孫曉先生と

広がる国際交流

スイス観光庁長官による特別講演会「観光大国スイスの魅力」を開催 

2015年11月16日、紀尾井町キャンパスにてスイス観光庁長官による特別講演会が行われました。

ユルグ・シュミット氏は、1999年11月よりスイス政府観光庁長官として務めておられます。マーケティングのプロでもあるシュミット氏によるプレゼンテーションは、観光大国スイスの魅力を存分に聴衆に伝える刺激的なものとなりました。講演後の質疑応答では、観光学部生からの質問一つ一つに丁寧に答えられ、学部生にとって大変よき機会となりました。



シュミット氏による講演

フィリピン日本語文化学院(PIJLC)と学術交流協定締結

2015年5月15日、学校法人城西大学とフィリピン日本語文化学院が学術交流協定を締結しました。

同学院の院長フィリップ・サンヴィクター氏はフィリピン元留学生連盟(PHILFEJA)会長で、本年はアセアン元日本留学生評議会(ASCOJA)の議長も兼務されており、この訪問を機に水田宗子理事長と会談されました。

フィリピン元留学生連盟は、駐日フィリピン大使であったホセ・S・ラウレル三世により1976年に設立され、フィリピン日本語文化学院も同氏が理事長を務める日比友好財団(PJFF)によって1992年に設立されました。

同学院は、日本留学を支援するため日本語能力試験(JLPT)に対応する教育を広範に実施していますが、日本の産業界の人材ニーズの高まりに応じ、IT、製造、サービス、建設、観光、福祉介護等々の職業別日本語教育のためのフィリピン人教師の養成が喫緊の課題となっており、この面での本学との提携に期待しています。このほか本学からの教師・学生の派遣も含めた交流を進めていくことも期待されます。



フィリピン日本語文化学院との学術協定

韓国・韓南大学校を訪問

・水田理事長が名誉博士号を授与される

2015年8月21日、水田宗子理事長は韓国の大田にある韓南大学校を訪れ、金炯泰総長から教育学名誉博士号を授与されました。2014年4月には同学校より高円宮久子妃殿下へ名誉博士号が授与されています。

韓南大学校とは2009年に学術交流協定を締結し、2012年12月に、城西国際大学の創立20周年を記念して設立した「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK(高円宮殿下記念スポーツパーク)」において、日本サッカー協会の名誉総裁を務められている高円宮妃殿下のご臨席のもと「第一回サッカー国際親善試合」が行われました。

こうした日本と韓国両国の友好の推進に努め、スポーツ、教育、若い人の人材育成に力を尽くしている水田理事長へ、このたびの授与となりました。

・サッカー交流で深まる友好

式典後、城西国際大学と韓南大学校による「第二回サッカー国際親善試合」が行われました。試合は一進一退の攻防が繰り広げられ1対1の引き分けに終わりました。

試合後、小山監督や選手らが韓南大学校関係者とペナントなどを交換し、次回の親善試合での再会を約束しました。



名誉博士号を授与される水田理事長

広がる国際交流

「香港国際詩歌の夕べ」に水田宗子理事長が招待詩人として参加

香港中文大学主催による第4回「香港国際詩歌之夜—International Poetry Nights in Hong Kong」が、2015年11月26日～29日の日程で、世界各国の著名詩人21名を招待して、香港にて開催されました。

日本からは、作家で詩人の多和田葉子氏と本学理事長水田宗子氏の2名が招待され、「Poetry and Conflict」をテーマとしたディスカッションと詩の朗読会に参加し、いままさに問題となっている中東との関係などを含め、非常に深い討論がなされました。

それぞれの300行にわたる自作の詩の朗読の場面では、各詩人にそれぞれ300行にわたる自作の詩の朗読の場面では、各詩人に理事長によるプレスカンファレンス合わせてすばらしい演奏や舞台装置が準備され、よりその詩の魅力を引き出していました。

世界が直面する課題に対して発揮される詩の持つ力、そして詩人のパワーと影響力の大きさを感じたシンポジウムでした。



理事長によるプレスカンファレンス

「ASEAN研究センター2016 新年の集い」

本学のアセアン諸国における教育・研究の促進をはかるために、2015年5月「学校法人城西大学アセアン研究センター」が設立され、同11月にはアセアン諸国から城西大学・城西国際大学に留学してきた学生、そしてアセアン諸国の研修生プログラム等に参加した日本人学生を中心とした「アセアンクラブ」が組織されました。2016年1月19日には、彼らの親睦もかねて、紀尾井町キャンパス3号棟にて「2016年新年の集い」が開催されました。

当日は、水田宗子理事長をはじめ75名の学生・教職員が参加しました。アセアンは10ヶ国からなりますが、今回はそのうち7ヶ国(カンボジア、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ミャンマー、タイ、ベトナム)からの留学生が参加しました。アセアン研究センターでは、今後さらにアセアン諸国との連携を進めたいと考えております。



参加者全員による記念撮影

「V4(ヴィシェグラード4)+日本」安全保障セミナーを開催

2016年2月10日、本学東京紀尾井町キャンパス・ホールにおいて「V4(ヴィシェグラード4)+日本」安全保障セミナーが、外務省、V4諸国、本学の共催により開催されました。

中欧のチェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキアの4ヶ国は、「ヴィシェグラード・グループ」を形成しており、グループの総称として「ヴィシェグラード4ヶ国(V4)」とも呼ばれています。日本でも「V4+日本」として、V4との対話・協力を推進しており、外務省が経済、環境、開発協力・エネルギー効率等のトピックスに関する各種セミナーを行ってきました。

同セミナーを本学が共催で行うのは今年で4回目になりますが、今回はV4議長国であるチェコからの提案で、「安全保障」をテーマとして実施し、セミナーの冒頭で、本学を代表しての水田宗子理事長の挨拶に続き、議長国のチェコを代表してトマーシュ・ドゥップ駐日特命全権大使が、日本政府を代表して武藤容治外務副大臣が基調講演を行いました。

基調講演に続いて行われた各セッションにおいては、我が国及びV4諸国から参加した研究者が、(1)平和安全保障法制と国際的安全保障協力における日本の役割、(2)NATOワルシャワ首脳会合の展望と中東情勢、(3)東アジアの安全保障情勢、(4)欧州の安全保障情勢(ウクライナ情勢、難民の流入問題)に関する講演を行い、参加者との間で活発な意見交換が行われました。



パネリストらによる記念撮影

産・官・学連携

カゴメとの共同研究で、野菜ジュースの有用性を発表

城西大学薬学部の金本郁男教授の医薬品安全性学研究室はカゴメとの共同研究で、野菜ジュースを食前に飲むことによって、メタボリックシンドローム(メタボ)の原因の一つである食後の血糖値の上昇が抑えられることを、ヒト試験で明らかにしました。また、野菜ジュースを食事中に飲んだ場合は、食後の血糖値が速やかに低下することを確認しました。

野菜には血糖値の上昇を抑える成分が含まれていることがわかっており、今回は摂取しやすい野菜ジュースが食後の血糖値上昇に与える影響を調べました。ヒト実験には研究室の奥山愛さん(6年)ら11人が参加。野菜ジュース(200ml)を白米(106g)摂取の15分前、30分前、60分前に飲む▽野菜ジュース(同量)と白米(同量)の同時摂取▽白米(150g)のみ摂取の5パターンで実施しました。その結果、野菜ジュースを白米摂取前に飲むと、白米のみを摂取した場合に比べて食後の血糖値の上昇が低く抑えられ、特に30分前に最も高い効果が出ました。

研究結果は2016年1月の日本病態栄養学会と5月の日本糖尿病学会で発表されました。



血糖値を測定する機械

イノベーション・マネジメント公開講座を開催

2015年6月24日、学校法人城西大学イノベーションセンター主催、城西国際大学大学院国際アドミニストレーション研究科共催により、イノベーション・マネジメント公開講座が行われました。講師には、株式会社小松製作所CTO室技術イノベーション企画部長富樫良一氏をお招きし、「コマツのイノベーション戦略について」という演題でご講演いただきました。

講演では、コマツのものづくりのDNAとして引き継がれている「コマツウェイ」を始め、それを礎に誕生した「ダントツ商品」⇒「ダントツサービス」⇒「ダントツソリューション」の流れを説明いただき、成功事例である「無人ダンプトラック運行システム(AHS)」及び「KOMTRAX」については、具体的な実例を交えて興味深いお話をされました。また、今後の技術進化の動向、市場ニーズの変化をにらんだ、コマツの目指すソリューションの方向性、オープンイノベーションへの取り組み活動についても言及され、多くの大学院生や一般の聴講者が世界的なグローバル企業の第一線の責任者の話に熱心に耳を傾けていました。



公開講座の様子

吉野家ホールディングスと包括協定を調印

2015年7月23日、城西国際大学はフードサービス業界の最大手である株式会社吉野家ホールディングス(東京都北区:河村泰貴代表取締役社長)と、人材育成や共同企画の推進などを目的に連携協力に関する包括協定を調印しました。

フードサービス業界の企業人による実践的な講義や企業人とのディスカッションによって、フードサービス業界への理解を深め、進路選択の幅をよりいっそう広げることを目的としております。今後は、インターンシップの実施、寄付講座の開講、留学生を対象にした就職説明会などを展開していきます。



吉野家ホールディングスとの協定調印式にて

産・官・学連携

経済学部の学生が商品開発したカップラーメンが販売開始

城西大学経済学部の学生が中心になって運営している「坂戸担々麺」プロジェクト。国産小麦「ハナマンテン」を使った麺を使用した「坂戸担々麺」を売り出し、地域の活性化を目指しています。

今回、経済学部の学生たちが商品開発したカップラーメン「坂戸ハナマンテン担々麺」の販売が始まりました。この商品は、TPP対策や地域活性化を目的とし、城西大学のある埼玉県坂戸市周辺で採れる「ハナマンテン」という品種の小麦のブランド化を図るとともに、坂戸市役所が推奨する「葉酸」や、坂戸市の有名企業「弓削多醤油」も使用しています。

また、PBL(プロジェクト型学習)、あるいはインターンシップの一環として、実際に商品開発を行うことで、社会人基礎力などの向上につなげるという狙いもあります。

学生たちは、商品の企画から、企業との交渉、実際の販売と様々な困難を乗り越えながら、このプロジェクトを遂行し、経済産業省が始めた社会人基礎力育成グランプリで、優秀賞も受けました。

さらに国産小麦「ハナマンテン」をブランド化することで、TPPによって外国産の小麦が多く輸入されることへの対抗力をつけるといったTPP対策も目的にしたプロジェクトです。



観光学部の学生が千葉県「道の駅」シンポジウム参加

城西国際大学観光学部と道の駅「鴨川オーシャンパーク」及び国土交通省関東整備局千葉国道事務所の三者で、大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、連携企画型の実習を実施しています。

2015年10月26日には、「千葉県『道の駅』シンポジウム」が千葉市内のホテルで開かれ、3000名の関係者が参加しました。

シンポジウムでは観光学部生3名(石出光(千葉市立稲毛高校出身)、牧野さや香(文理開成高校出身)、ドアン・ティアン・ジェウ・フク(ベトナム・ハイバーチューン高校))が登壇し、学生自身が主観的な意見を前面に出して編集した「街歩きのための地域マップ」の作成や、「地元食材を使った弁当販売」などのプロジェクトを報告しました。

また、同道の駅来場者へのアンケート調査も実施し、施設を訪れた方の年齢層や動機、情報収集の手段などの調査についても発表しました。



「道の駅シンポジウム」参加した学生

航空・空港キャリア実習を実施

城西国際大学国際人文学部国際交流学科は、ANA総合研究所との産学連携協定に基づいて、「航空・空港キャリア概論a・b」と「航空・空港キャリア実習」の授業を行っています。ANAグループの多様な人材により、航空業界のシステムを理論的に学び、中部国際空港において実践的かつ独創的なグランドスタッフの業務インターンシップを行っています。

本学は、ANAグループ各社への人材供給を目指し、航空・物流産業、旅行・観光産業等に従事する人材の育成を行っていますが、特に国際交流学科では、理論と実践を融合した教育によりエアライン業界において即戦力となる人材を輩出しています。



航空・空港キャリアの実習風景

地域との交流・連携 - 埼玉・坂戸地域の活性化

「こま川めしプロジェクト」で取り組んだ「タネまで柚子らん」を世界へ発信

城西大学薬学部医療栄養学科では、「地域の食材を活用して、人々の健康・自然環境・地域経済に貢献する」という課題に取り組んでおり、生産特性、食文化特性、さらに食生活や栄養価を考慮した食事や食品を考案する「こま川めしプロジェクト」を実施しています。

毛呂山町、越生町、ときがわ町の「桂木ゆず」は、日本最古の商業栽培で、高品質の柚子として知られています。一般に柚子の加工においては、果皮や種子は廃棄されますが、医療栄養学科では、果皮や種子を含む「まるごと」の柚子をなめらかなペーストにした「タネまで柚子らん」を開発しました。この柚子まるごとペーストは、「エコ」であるだけでなく、食味が良く、調理加工性にも優れています。さらに、種子に含まれる機能成分が「骨の健康」に関与することも発見しました。この取り組みは、地元行政、柚子農家、食品加工・販売企業との連携が重要であり、かつ、このような情報や製品を国内のみならず海外にも届けることが重要だと考えています。

現在は、この「タネまで柚子らん」を使った新食品の開発に取り組んでおり、今後様々な場所でこのペーストを使った製品を食べていただけるものと期待しています。



食品展示会で(株)福島食品とコラボした製品の紹介

化石ギャラリーのワークショップを開催

東武東上線北坂戸駅前の「北坂戸にぎわいサロン」で、2015年3月28、29の両日、化石に触れて観察できるワークショップ(体験プログラム)が開かれました。小学生約90人が、石をハンマーで割って三葉虫などの化石を取り出したほか、クイズ形式で楽しく化石に関する知識を学びました。

大石道夫・東大名誉教授が寄託した貴重な化石などを常設展示する東京紀尾井町キャンパス3号棟の「水田記念博物館大石化石ギャラリー」で行っているワークショップを、同サロンで初めて「出張開催」しました。

同ギャラリー学芸員の中田健太郎さんが「楽しみながら昔の地球の歴史や生き物を知ってほしい」と語りかけ、クイズ形式で化石の基礎知識を教えました。子どもたちは、丁寧な指導を受けた後、化石が含まれることが多い「ノジュール」という石から三葉虫の化石を次々と取り出し、笑顔を浮かべました。また、標本ラベルを付けた化石をお土産に持ち帰りました。



化石に関して学ぶ子どもたち

JAWSランニング教室を開催

2015年12月12日、城西大学でJAWSランニング教室が開催されました。この活動は、本学の陸上競技部部員が主体となって、近隣地域の小学生、中学生に陸上競技を教えるとともに、大学を身近に感じていただく機会を提供する目的で始まりました。

開催当日は小学生11名、中学生25名が本学陸上競技場に集まり、新たに改装されたトラックで元気良く練習を行いました。

JAWSランニング教室は近隣の小学生以上の生徒を対象にした地域貢献活動です。今後も定期的に開催をいたしますので、ぜひご参加下さい。



本学学生から指導を受ける中学生

地域との交流・連携 - 埼玉・坂戸地域の活性化

第15回「坂戸よさこい」に参加しダンスを披露

第15回目を迎えた「坂戸よさこい」が2015年10月10、11日の両日に開かれ、今年も城西大学経営学部学生会と、ダンスサークル「SHOE LACE」が参加して祭りを盛り上げました。「坂戸よさこい」はこれまで毎年8月に行われてきましたが、猛暑を避けて今年から10月開催になりました。

経営学部学生会は10日にパレード。よさこい祭代表の塚田康友さん(3年)が「今年は時間差や隊列変化、左右対称など凝った踊りになっています。大学生という、若さゆえのエネルギーな踊りを見ていってください」と口上を述べて、ダイナミックな踊りを披露しました。

メンバーは講義の後や夏休みを利用して練習を重ねてきました。1年生の時から参加している学生会の岡田健吾会長(3年)は「今年は躍動感のある踊りができたと思う。ただただ楽しくて、終わってみると来年もまた参加したいと思えてくる」と笑顔で語りました。



「坂戸よさこい」に参加したSHOE LACEのメンバー

高麗川 川まるごと再生プロジェクト

城西大学の裏を流れる高麗川が、2015年4月に護岸、遊歩道整備工事が開始されました。2016年3月には完成予定ですが、完成後は、多様な世代が利用可能な広場や水遊び場、散策しやすい遊歩道等が整備されます。

遊歩道が市街地である北坂戸から景勝地の城山まで、高麗川のほとりを歩くことが可能になることから、さらに親しみやすい川となり、多くの市民や観光客を呼び込むことができます。国の「ふるさとの川整備事業」に併せ、「川のまるごと再生プロジェクト」に取り組むことで、市内を流れる高麗川をまるごと再生します。

本学では、これまでも「高麗川プロジェクト」と名付けた様々な活動を展開してきました。今後も、埼玉県、坂戸市と連携し高麗川の魅力のPRに努めるとともにゴミ拾いなどの清掃活動にも積極的に参加する予定です。

また、将来的には、カヌー・カヤックの舟着場、トイレ施設、人専用橋等の設置等、埼玉県と坂戸市と検討していきたいと思えます。



高麗川の整備が進みます



将来、カヌー・カヤックの船着場も整備されます

「高麗川プロジェクト」の活動

高麗川プロジェクトでは、高麗川清掃ボランティアや高麗川沿い休耕地活用プロジェクト、また「高麗川ふるさと健康ウォーキング」への協力など、様々な活動をおこなっております。



地域との交流・連携 - 埼玉・坂戸地域の活性化

ローカルヒーロー「ユニベーターJ」が誕生

子供たちに人気のヒーローは、地域振興でも注目されている。そんな「ローカルヒーロー」が、城西大学にも誕生しました。

経営学部の石井龍太ゼミナールでは、地域振興や福祉の点から「ローカルヒーロー」に注目し研究しています。全国各地でローカルヒーローは200種類以上存在し、石井ゼミナールでは実際にヒーローショーを見学などして研究を進めてきました。

石井ゼミナールでの活動はそれにとどまりません。研究した内容をもとに、学生たちが実際にヒーローに変身し、ローカルヒーロー「ユニベーターJ」などとして、地域のイベントなどで活躍しています。

シナリオ、音響、衣装デザインまで学生たちが中心になり、本格的な仕上がりとなっています。2人のヒーローと7人の悪役たちが繰り広げる物語は、子供たちだけではなく、大人がみても楽しめるつくりになっています。高麗祭で行ったヒーローショーは、ユニークな物語で盛況を博しました。



ローカルヒーロー「ユニベーターJ」

鶴ヶ島市図書館まつりに参加し、地域交流をはかる

2015年9月26、27日に鶴ヶ島市立中央図書館において開催された第28回図書館まつりに参加し、「世界を魅了した日本の版画」をテーマに海外で出版された日本の版画に関する図書館資料や美術館所蔵の複製版浮世絵を展示しました

さらに、大学の成果物であるハーブ石鹸、「みんなで栄養かるた」「みんなでお菓かるた」「レシピ集」などのご紹介をさせていただき、大学図書館・美術館の地域開放のご案内など本学を知っていただく貴重な機会となりました。



図書館を開放し、版画を展示

「城西大学読書感想文コンテスト2015：読む・知る・伝える、読書の楽しみ」の表彰式

城西大学は水田三喜男により「学問による人間形成」を建学の精神として昭和40年に創立され、昨年創立50周年を迎えました。

これを記念し、地域と連携し、若い世代が読書の楽しさや素晴らしさを体験し、読書が習慣化するよう、以下の要領で読書感想文コンテストを行いました。

部門1(中学生・高校生の部)は145名、部門2(大学生・短大生の部)は100名の応募がありました。第1次審査から第3次審査まで厳選な審査の結果、グランプリ1名、準グランプリ1名、優秀賞8名が決まりました。

○審査結果(2015年11月30日発表)

グランプリ:「教養によって導かれる国際性」植田瑞美(城西大学薬学部薬科学科2年)

書名:『緒方貞子一戦が終わらないこの世界で/小山靖史著』

準グランプリ:「ディズニーから学んだこと」小山彩華(武南学園武南中学校2年)

書名:『ディズニーランドであった心温まる物語/香取貴信監修、東京ディズニーランド卒業生有志著』



表彰後の記念撮影

地域との交流・連携 - 千葉・東金・鴨川地域の活性化

「トレイルウォーカー東北2015」で完歩、Younger Finisher Awardを受賞

2015年7月11日、12日と国際NGOオックスファム・ジャパン主催「トレイルウォーカー東北」が福島県二本松の安達太良山にて開催され、本学より学生4名が出場しました。

この歩く国際協力イベントに向けて、学生たちは半年以上準備に取り組み、練習を行ってきた結果、24時間以内に全員が無事ゴールすることができました。

記録のタイムは20時間53分04秒でした。またこのイベントに出場するためのもう1つの目標である寄付金集めについても、出場前に目標額を達成することができ、オックスファム・ジャパンに届けることができました。

各出場者から届けられた寄付金は、今後、オックスファム・ジャパンを通じて、世界の貧困問題の解決や東北の復興に役立てられます。またトレイルウォーカー授賞式が11月11日、東京・秋葉原にて開催され、チームがYounger Finisher Awardを受けました。



トレイルウォーカーに参加した学生たち

「式根島 島づくり若手人材招へい・育成プログラム」に参加

東京都式根島観光協会により「式根島 島づくり若手人材招へい・育成プログラム」が公募され、応募した本学2名の学生が選出されました。それにより2015年10月12日より3日間、式根島を訪れ、島の探索や島民との親睦会、ワークショップに参加するなど、島づくりや地域づくり・地域おこしについて学び、島民の人々と積極的に意見交換を行いました。

このプログラムでは、人口減少、高齢化、観光客減少などの問題を抱える島に外部者の視点が入ることで、島民が気づかない新しい発見が期待されることや、参加した大学生は地域づくりの実情を肌身で感じることができることから、今後の研究や勉学に活用できることが期待されています。参加した大学生は本学学生を含め7名で、地元の人々との意見交換会を通して島の現状を知ることができ、また学生から見た意見も発表できました。他大学の学生間での交流も進み、貴重な相互の意見交換と学びの場となりました。



若手人材招へい・育成プログラムに参加した学生たち

いきいき健康サロンを開催

2015年9月から12月の毎週水曜日に、City Lights Caféにおいて求名駅前在住の65歳以上の方を対象としたコミュニティ参加型の「いきいき健康サロン」を開催しました。

このサロンは「頭と体の健康づくり」をメインテーマに、地域団体の「長寿会ひまわり」と看護学部が共催して、NTT東日本とIUくじらクラブ、地域の民生委員など多くの関係者の皆さまのご協力のもと活動を行ないました。

各週の参加者は教員・学生を含め毎回20名以上を数え、健康体操やタブレット端末での脳トレ、手遊び、カラオケ、ちぎり絵、ティータイムなどを通して看護学部学生と交流をしました。

おしゃべりと笑い声が絶えず聞こえる楽しいサロンとなりました。



いきいき健康サロンでの集合写真

地域との交流・連携 - 千葉・東金・鴨川地域の活性化

九十九里コミュニティヘルスケア 夏期セミナーを開催 

九十九里地域におけるヘルスケアに携わる人材育成とヒューマンネットワークの構築を目的として、「九十九里コミュニティヘルスケア夏期セミナー2015」が8月29日、30日の両日で開催されました。前身の地域医療夏期セミナーから数えると今年で通算7回目の開催となります。

基調講演には、東埼玉総合病院の中野智紀医師と、コミュニティカフェ「元気スタンド・プリズム」の小泉圭司店長をお招きし、「医者とカフェ店長が描くヘルスケアコミュニティの未来」についてお話しいただきました。

セミナーには学生参加者に加え、地域の保健・医療・福祉にかかわる専門職者が参加し、地域のコミュニティヘルスにおける課題の抽出や「10年後の豊かなまちづくり」を実現するための様々な議論が交わされました。



成果をまとめ、発表する学生たち

看護学部「Threshold Ceremony ～戴帽式～」 

2015年9月11日、2015年度入学生の“Threshold Ceremony”が、会場の水田記念ホールを全て埋め尽くす多数のご来賓とご父母が見守る中で行われました。

“Threshold Ceremony”は、城西国際大学看護学部のスタート時に現在の4年生の強い要望で始められました。ナースキャップやエンブレムを戴帽生に代々引き継ぐことは、新しい伝統や、そうした先輩らの強い思いも引き継ぐことを象徴しています。

戴帽生はキャンドルに火を灯し、厳粛な雰囲気の中、自分達で考えた誓いの言葉を述べました。ナイチンゲールは「看護はscienceでありartである」という言葉を残しています。artは“専門的な技術”と訳されますが、これを“人の心を動かすこと”と捉えると、戴帽生を見守る人々の心を動かし、さらに戴帽生自身も看護への思いを新たにすることでしょう。

まさに“Threshold看護師への敷居”を一歩またぐセレモニーとして永く引き継がれることでしょう。



水田理事長より戴帽を受ける

看護学部の学生が茂原市「がん予防市民公開講座」に参加 

2016年1月17日に、茂原市主催のがん予防市民公開講座が開催されました。女優の原千晶さんが「大切にしたい自分の体～22の子宮がんを経験して～」というタイトルで講演をされ、約300名の市民の方が集まりました。

本学は共催団体のひとつとなり、城西国際大学看護学部の3つのゼミ活動グループが「HIV/AIDS」「月経困難症」「ハンドマッサージ」の学習成果をポスター発表し、また、33人にアロママッサージの体験をしていただきました。ナース服で参加した9名の学生は、ポスターに足をとめてくださる市民の方々から多くの反応をいただき、もっと見やすく、わかりやすいプレゼンテーションについて学ぶ機会となりました。ご自身の患者経験の話を学生に話して下さる方や、「城西国際大学にも看護が出来たのね」「がんばってね」と声をかけてくださる方もいて、貴重な体験となりました。



参加した看護学部の学生たち

地域との交流・連携 - 千葉・東金・鴨川地域の活性化

柏井高等学校で「国際交流講座」を実施 

城西国際大学国際人文学部国際文化学科では、11ヶ国の言語を第二外国語として配置し、日本人学生は選択した言語を学ぶことができます。また、中国、韓国、欧州からの留学生が多数在籍し、地域社会の国際交流行事に参加しています。

千葉県立柏井高等学校では、2年生から中国語か韓国語を選択して学習するコースがあります。本学の国際文化学科では、2014年度から同校の「国際交流講座」に留学生を派遣しています。

留学生たちは、一名ずつ各クラスの教壇に立って、母国の若者がどんなことに興味があるのかを紹介したり、簡単な会話、事前に準備したゲームなどの教材を使って一日講師をつとめています。

国際人文学部は、言語・文化の側面から、若い世代の国際交流の場を支援していきます。



柏井高校での国際交流講座の様子

「小さな農プロジェクト」で収穫されたコシヒカリ 

城西国際大学環境社会学部では、「小さな農プロジェクト」として小規模な農業に取り組み、「食の安全・安心」、「農業生産を通じた環境保全」、「農業による地域活性化」などについて実践的な学びに取り組んでいます。

2015年5月30日に、本学東金キャンパス近くのJIU農園において田植えを実施しました。さわやかな天候のもと、学部学生とスロバキアからの留学生が参加し、総勢33名で田植えを行いました。

使用した苗は4月22日に育苗実習の授業中に播種した黒米と、「小さな農プロジェクト」で田植えをする学生たちコシヒカリです。参加学生は田んぼの粘土や水の感触を確かめながら、15cm程度に成長した苗を1株あたり2～3本ずつ、丁寧に植え付けていきました。最初のうちこそ泥に足を取られたり、カエルなどの田んぼの生き物に驚いたりしていましたが、作業に慣れるにつれて効率も上がり、無事に田植えを終了することができました。

この田んぼで獲れたお米は、11月に開催された大学祭で販売するとともに、麴に加工して味噌などの発酵食品の製造にも利用されました。農作物の栽培だけでなく、加工や販売までを一体のものとして学習することで、安全な食や農業と環境と社会との関わりを実践的に学んでいきます。



「小さな農プロジェクト」で田植えをする学生たち

東金防犯パトロール 

2015年7月14日に大学周辺の防犯パトロールを実施しました。この活動は東金市や東金警察署と連携した地域貢献活動の一環として、2007年から継続して実施しているものです。今年度の前期は城西国際大学軟式野球部と軽音楽部の学生が防犯パトロールを行い、前期の最終回となった14日は、東金警察署や東金市青少年相談員の方にも参加していただきました。

大学求名門を起点として、大学周辺の学生アパートや求名駅を経由し、求名団地を約1時間半かけて巡回。行き交う地域住民の方々に声掛け等を行いました。

地域住民の方々にも本活動は浸透しており、「ご苦労様」、「いつもありがとう」という労いの言葉も多くいただくようになりました。後期も課外活動団体の学生を中心に大学周辺のパトロールを予定しています。



防犯パトロールで地域の方との交流を深める

文化・スポーツ・メディア振興

「Asia Summer Program 2015」を開催  

2015年7月7日(七夕の日)から28日までの3週間にわたり、「Asia Summer Program 2015 in JOSAI, A Global get together in Japan-promoting glocal exchange in Asia-」を実施しました。

本プログラムは、2012年に学校法人城西大学を含めたアジアの5大学(インドネシア・ペトラクリスチャン大学、韓国・東西大学校、マレーシア・ペルリス大学、タイ・バンコク大学)による連携協定のもとスタートしました。毎年、協定を交わした5大学が順次ホスト校を務め、主にアジア地域の大学から派遣された学生を受入れ、期間中は、アジアの経済、社会、文化などの講義のほか、友好・交流を深めるさまざまなアクティビティも実施されました。

本プログラムは今回で4回目を迎え、学校法人城西大学創立50周年を迎える本年、本学がホスト校となつての開催となりました。本学学生を含む9ヶ国14大学からの約150名の学生が城西国際大学東金キャンパス及び安房キャンパス、城西大学坂戸キャンパスそれぞれにおいて、短期集中的に英語による多文化的な科目を履修するとともに、共同生活を送る中で学生同士交流を図り、異なる文化や価値観に対する理解を深めることができたプログラムとなりました。

来年はタイ・バンコク大学がホスト校となり、より一層盛大なプログラムとなることを願い、3週間の「Asia Summer Program 2015」が閉会しました。

参加大学一覧

1. 日本	城西大学、城西国際大学
2. バングラデシュ	Daffodil International University
3. 中国	瀋陽師範大学
4. インドネシア	Petra Christian University
5. 韓国	東西大学校
6. リトアニア	Mykolas Romeris University
7. マレーシア	Universiti Malaysia Perlis、 Universiti Tunku Abdul Rahman
8. フィリピン	Panpacific University North Philippines
9. タイ	Bangkok University、 Christian university of Thailand、 Naresuan University、 Rajamangala University of Technology Srivijaya



大盛況のうちに幕を閉じたアジアサマープログラム



七夕の願いごとを飾ります



ASP参加学生たち



RAKUGO in Englishの一コマ

文化・スポーツ・メディア振興

第10回セルフメディケーションアワードで1名が大賞、4名が佳作を受賞 

城西大学薬学部薬科学科の学生が、第15回JAPANドラッグストアショー(日本チェーンドラッグストア協会(JACDS)主催)の第10回セルフメディケーションアワード(開催日:平成27年3月13日、場所:千葉・幕張メッセ)において、次のように受賞しました。

【大賞】薬科学科2年生・植田瑞美さん
【佳作】薬科学科2年生・重藤みきさん、千葉夏美さん、中村美沙さん、西田光希さん



「セルフメディケーションアワード」は、全国から寄せられた多数の応募作品の中から厳正な審査が行われ、受賞作品が選ばれ、左2人目から重藤さん、中村さん、植田さん、千葉さんる賞です。今回は城西大学薬科学科から応募した学生では初めて植田瑞美さんが、薬学生・薬業専門学校生の部で「大賞」を受賞しました。また重藤さん他4名が、佳作を受賞しました。

「大賞」を受賞した植田さんは、日本チェーンドラッグストア協会事務総長の宗像守先生の講演を聞き、日本の医療保険制度の崩壊に危機感を覚え、セルフメディケーションについて関心を寄せるようになったこと、さらに生活者の視点で人々の安心・安全をサポートできる将来の薬科学技術者あるいは現在の薬科学科生として、セルフメディケーションの推進にどのように貢献できるかについて、論文として分かりやすくまとめました。

「生体機能と創薬シンポジウム2015」のポスター発表で優秀発表賞を受賞 

2015年8月27日、日本大学で開催された「生体機能と創薬シンポジウム2015」において、山浦しずきさん(城西国際大学薬学部5年)がポスター優秀発表賞を受賞しました。

本シンポジウムは、毎年夏に全国の薬科大学の薬理学関連教員およびその研究室の学生が集まり、薬の効き方を学ぶ薬理学の学術・教育研究の推進を目的に開催されます(主催:日本薬学会薬理系薬理部会)。その中で、ポスター発表は今年度大学院生および学部学生を中心に全国から74演題が集まり、発表は複数の教員により審査され優秀発表賞8件が選考されました。



優秀賞を受賞した山浦しずきさん

山浦さんらは、「麻酔下ラットにおけるワサビ辛味成分アリルイソチオシアネートによる胃粘膜微小炎症の惹起—TRPA1チャネルおよび一酸化窒素の関与—」というタイトルでポスター発表をしました。

発表内容は、我が国でもストレスによる胃腸機能障害の罹患者が増えている状況を踏まえ、その新規治療薬の開発で必要となる病態モデル動物の開発企画を「ワサビ辛味成分の微小炎症惹起作用」に焦点をあてて実験科学的に証明したものです。

薬の専門家として土台を築く6年制薬学部において、我が国でも実務とサイエンスの両者を兼ね備え統合できる人材育成が求められています。

文化・スポーツ・メディア振興

第15回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会 

2015年12月26日に「第15回水田三喜男杯争奪選抜高等学校柔道大会」が開催されました。学校法人城西大学創立50周年の節目に行われた今大会では、北は北海道、南は熊本まで、全国から男子52校、女子36校の強豪校が集い、水田三喜男杯の栄冠を目指し熱戦を繰り広げました。

男子の部では、昨年に続き優勝を目指す大成(愛知)が、初優勝を目指す田村(福島)を下し見事連覇を達成。女子の部では敬愛(福岡)が長崎明誠(長崎)の九州勢対決を制し、初優勝を飾りました。

本大会は、春の高校選手権ひいては次年度の高校柔道界の行方を占う大会として、また高校柔道における冬の風物詩として注目されています。最優秀選手は、渡辺神威選手(大成)と児玉ひかる選手(敬愛)でした。



会場では熱戦が繰り広げられた

大会結果	【男子の部】	優勝 大成高校(愛知県)	【女子の部】	優勝 敬愛高校(福岡県)
		準優勝 田村高校(福島県)		準優勝 長崎明誠高校(長崎県)
		第3位 桐蔭学園高校(神奈川県)		第3位 藤枝順心高校(静岡県)
		木更津総合高校(千葉県)		埼玉栄高校(埼玉県)

第15回水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会 

学校法人50周年を記念する第15回水田三喜男旗争奪選抜高等学校剣道大会が、2月7日、本学スポーツ文化センターで開催されました。

参加校は過去最多の59校、男女合わせ84チームの出場となり、創設者の冠旗争奪に鎧を削り、真冬の空気を一掃するかのような白熱戦が終始繰り広げられました。

この出場チームの中には、既に各県で優勝を果たし、3月下旬の全国選抜剣道大会に県代表として出場する最強チーム男子9校と女子13校が含まれ、決勝トーナメントでの力はほぼ横一線。その中にあって神奈川県が強豪校桐蔭学園高校がアベック優勝を果たし、水田三喜男旗の頂点に立ち、学校法人創立50周年を飾りました。



高等学校剣道大会での白熱した闘い

大会結果	【男子の部】	優勝 桐蔭学園高校(神奈川県)	【女子の部】	優勝 桐蔭学園高校(神奈川県)
		準優勝 佐野日本大学高校(栃木県)		準優勝 尚綱高校(熊本県)
		第3位 阿蘇中央高校(熊本県)		第3位 東奥義塾高校(青森県)
		浜名高校(静岡県)		磐田東高校(静岡県)

子どもたちとともに

第3回川淵三郎杯城西国際大学少年サッカー大会開催 

2016年2月27日～28日の2日間、本学「PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK(高円宮殿下記念スポーツパーク)」において、「学校法人城西大学創立50周年記念PRINCE TAKAMADO MEMORIAL SPORTS PARK第3回川淵三郎杯城西国際大学少年サッカー大会」を開催しました。

本大会は、スポーツを通して次世代を担う青少年の健全な育成に寄与することを目的とし、スポーツを楽しみながら親睦と交流を図り、サッカーの普及・発展に努めること、そして、高円宮殿下のご遺徳を継承し実行していくためのサッカー大会として、地域の少年サッカーチームの目標となるような盛大な大会へと発展させ、地域のスポーツ振興の貢献に努めることを目的として2014年より開催しているものです。

今大会は、山武郡市に所属している少年サッカー16チームが参加。1日目に4つに分けて予選リーグを行い、2日目に予選リーグの結果をもとに順位リーグをおこないました。1日目に各リーグ1位だったFC.FRIENDS、FC蓮沼BB、増穂FC、ときがねFCの4チームで1位リーグをおこなった結果、増穂FCが見事に初優勝を飾りました。



第3回少年サッカー大会の様子

学校法人城西大学創立50周年記念
2015年度 第3回水田杯中学校野球大会を開催 

2015年3月5日、3月6日の日程で第3回水田杯中学校野球大会を開催し、参加12校が熱戦を繰り広げました。

大会会長の石毛宏典・城西国際大学客員教授は選手たちに対して「肉体的な成長、心の成長をもとにチームメイトとともに一生懸命頑張ってください」と語りました。

出場チームを代表して鴨川中学校の野村晃之介君は「日頃野球ができる喜びを胸に、指導してくれる先生方、応援してくれる家族に感謝し、仲間を信じ力の限り全力でプレーすることを誓います」と選手宣誓しました。

3月5日に4グループに分かれてリーグ戦を行い、3月6日に各順位グループでトーナメント戦を行いました。ちはら台南中学校と館山第三中学校による決勝戦では、両チーム無得点の白熱の投手戦となりましたが、7回裏ちはら台南中学校のサヨナラ勝ちとなり、ちはら台南中学校の2年連続2度目の優勝となりました。

大会名誉会長の水田宗子・学校法人城西大学理事長は「野球で汗を流し、日々練習を重ね、そして元気に新学期が迎えられるよう身体を大切に過ごしてください」とコメントを寄せました。



選手宣誓する、鴨川中学校の野村晃之介主将



優勝した、ちはら台南中学校
(前列中央は大会会長の石毛宏典客員教授)

大会結果	優勝 ちはら台南中学校(市原市)	【個人賞】	最優秀選手賞: 相川直央君(ちはら台南中学校)	優秀選手賞: 中村良也君(館山第三中学校)
	準優勝 館山第三中学校(館山市)		敢闘賞: 涌水康佑君(館山第三中学校)	優秀選手賞: 西野将佳君(鴨川中学校)
	第3位 鴨川中学校(鴨川市)		優秀選手賞: 亀崎真人君(ちはら台南中学校)	優秀選手賞: 松橋 輪君(五井中学校)
	五井中学校(市原市)			

子どもたちとともに

第10回全国高等学校情報科学競技大会を開催 

2015年3月21日に本学主催の「城西国際大学第10回全国高等学校情報科学競技大会」を、東京紀尾井町キャンパスで開催しました。ITパスポート(IP)部門(団体・個人)、システムエンジニア(SE)部門(団体・個人)の各部門に分かれ、24校169名の高校生の皆さんが情報処理の基礎・応用問題に挑みました。

大会運営は、情報マネジメントコースに所属する学生が中心になって行われました。インターネットを通じて情報を得て意思決定を行うことが必須となっている現代社会において、グローバル人材の育成には、ITに関する知識を身に付けた人材を育成することを目的として実施しております。



第10回全国高等学校情報科学競技大会の受賞者たち

大会結果	【ITパスポート(IP)部門】	【システムエンジニア(SE)部門】
	優勝 岡山立沼津商業高等学校	優勝 静岡県立浜松商業高等学校
	準優勝 千葉県立千葉商業高等学校	準優勝 福島県立福島商業高等学校
	第3位 埼玉県立深谷商業高等学校	第3位 茨城県立水戸工業高等学校

「子ども大学にしているま」を開催 

2015年度で4回目となる「子ども大学にしているま」が開催されました。

今年度も坂戸市、毛呂山町、越生町の小学校5～6年生45名が集まり、授業や実験を行いました。

城西大学理学部教員からは、光の仕組みや酸素を液体に変える実験などを行い、熱心に実験に取り組みました。薬学部教員の授業では、においについての講義を受け、自分たちで練り香水を作る演習を行いました。においについての不思議や、どのように配合するといった匂いになるかなど、グループで討議し、試行錯誤していました。「におい」についての実験に聞き入る子どもたち

子ども大学にしているまは、子供の学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子供を育てる仕組みを創るために開講しています。

子ども大学では、大学のキャンパス等を会場に、大学教授や地域の専門家等が講師となり、子供の知的好奇心を刺激する講義や体験活動が行われています。



国際子どもクリスマス会 

子ども福祉コース主催の「国際子どもクリスマス会」が2015年12月10日に開催されました。

城西国際大学同窓会グローバルユースのご協力のもと、東金市立第三保育所5歳児クラスの子供たち18名を招待しました。

子ども福祉コースの1年生2名が進行役となり、3年生が絵本を題材とした3つの影絵「ぐりとぐら」「てぶくろ」「にじいろのさかな」を披露しました。影絵の幕間にはハンガリーからの留学生が、ハンガリーのクリスマスの過ごし方について日本語でわかりやすく紹介してくれました。

子どもたちとの触れ合いや観察を通して理解を深め、行事の運営を経験することで保育者としての実践力を高めていくことができました。



国際子どもクリスマス会の様子

建築賞受賞

多数の建築賞を受賞しています

❖ 清光会館

1992年 さいたま景観賞

清光会館は、新しい大学に求められる国際化・情報化に対応し、1992年に完成した城西大学の中核を担うシンボリックな建物です。

同年、秩父の丘陵を望むその美しい外観によって埼玉県景観賞を受賞しました。



❖ 清光会館

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、城西大学同窓会の協賛もいただき2004年に建設されました。

その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞しました。



❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 米国建築家協会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会(AIA: American Institute of Architects) ニューヨーク支部より、2008年度メリット賞を受賞しました。

AIAは2008年度にはじめて教育的な建物(2001年1月11日以降完成の建物)についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。



❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年 日本建築学会賞
2006年度 日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。



❖ JIUランドスケープデザイン

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周辺の環境に充分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。



❖ 旧水田家住宅(母屋)

❖ 城西大学水田美術館

2012年 米国建築家協会Merit賞
2013年 アーキタイザー・アワード特別賞

城西大学水田美術館は、米国建築家協会ニューヨーク支部より、AIANY Design Awards2012のMerit賞を受賞しました。

また、インターネットによる世界最大の建築物のコンペティション「アーキタイザー」より、2013年アーキタイザー・アワードの特別賞を受賞しました。

本美術館は、学校法人城西大学45周年記念事業として建設されたもので、大学所蔵の美術品展示のみならず国際交流・地域交流をさらに発展させる芸術・文化の拠点です。



❖ 水田美術館外観

美術館

2015年度 水田美術館の展覧会・講演会

水田美術館における2015年度の活動をご紹介します。

【城西国際大学水田美術館】

◆学校法人城西大学創立50周年記念 第11回メディア学部卒業制作優秀展

会 期：4月13日[月]～17日[金]
内 容：メディア学部の「情報・映像・デザイン・サウンドを複合的に学び、新しいメディアのかたちをつくる」という基本コンセプトに沿って研鑽を積んできた学生達が、4年間の成果を発表しました。

◆学校法人城西大学創立50周年記念 水田コレクション浮世絵展 役者絵

会 期：5月7日[木]～23日[土]
内 容：内容：鳥居派から勝川派、写楽、歌川派の作品により、役者絵の流れをご覧ください。あわせて、舞台に取材したもの、人気の役柄に人気役者を組み合わせた見立絵、楽屋や稽古中の素顔を描いたもの、追善のための死絵など、ファンの心を掴む様々な趣向の役者絵を紹介しました。
関連企画：講演会 5月23日[土]
ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)5月9日[土]、16日[土]

◆学校法人城西大学創立50周年記念 創作版画でめぐるモダン都市東京

会 期：前期6月2日[火]～27日[土] 後期6月30日[火]～7月25日[土]
内 容：関東大震災後、鉄とコンクリートによるモダン都市に生まれ変わった東京の風景を、恩地孝四郎らの《新東京百景》シリーズ、小泉癸巳男の《昭和東京百図絵》など、画家の個性が光る創作版画で紹介しました。
関連企画：講演会 6月19日[金]
ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)6月13日[土]、7月18日[土]

◆学校法人城西大学創立50周年記念 水田コレクション 浮世絵美人競(くらべ)

会 期：10月1日[木]～17日[土]
内 容：浮世絵に描かれた美人は、当時の理想像であり、時代の好みとともに次々と変わりました。本展では、菱川師宣、鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、月岡芳年など、各時代を代表する絵師の作品により、美人画の流れをご覧ください。
関連企画：講演会 10月17日[土]
ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)10月3日[土]、10日[土]

◆学校法人城西大学創立50周年記念 こどもたちのモダンライフ 1920-30年代児童雑誌の原画展

会 期：11月10日[火]～12月5日[土]
内 容：大正時代、『子供之友』『赤い鳥』『コドモノクニ』など、芸術性の高い物語、詩、歌、絵を収録する児童雑誌が相次いで刊行されました。本展では、竹久夢二や岡本帰一、清水良雄、武井武雄、村山知義など、代表的な画家による雑誌原画を紹介しました。
関連企画：講演会 11月28日[土]
鑑賞+創作ワークショップ「物語であそぼ!」11月21日[土]



美術館

◆高円宮殿下記念ギャラリーオープン記念 高円宮コレクション現代根付展

会 期：2016年2月1日[月]～13日[土]
内 容：高円宮妃久子殿下は、故高円宮殿下とご一緒に、国内外の作家による現代根付や古根付を蒐集されてきました。本展では、高円宮コレクションより現代根付と、妃殿下が様々な場所へ根付を連れ出し撮影された写真シリーズ「旅する根付」をご紹介します。

【城西大学水田美術館】

◆城西大学創立50周年記念 水田コレクション浮世絵名品展 四季を愛でる

会 期：4月21日[火]～5月16日[土]
内 容：城西大学創立50周年を記念し、創立者水田三喜男が蒐集した浮世絵コレクションの名品を1年を通じてご紹介。第1回目は、「四季を愛でる」と題し、水田コレクションの中から四季の風物を感じられる作品、浮世絵の創始者菱川師宣の《虫籠美人図》をはじめ、三月の「桃の節句」、五月の「端午の節句」、九月の「重陽の節句」を描いた作品など、季節の情感がふんだんに盛り込まれた作品を展示しました。
関連企画：ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)5月17日[土]

◆城西大学創立50周年記念 水田コレクション浮世絵名品展 すべて見せます! 宮川長春《江戸風俗図巻》特別公開

会 期：7月7日[火]～25日[土]
内 容：城西大学創立50周年記念水田コレクション浮世絵名品展第2回目は、宮川長春《江戸風俗図巻》全巻を特別に公開し、長春芸術の一端をご覧ください。あわせて、遊女や芸者の風俗を描いた作品も展示しました。
関連企画：講演会 7月18日[土]
ギャラリートーク(当館学芸員による展示解説)7月11日[土]

◆城西大学創立50周年記念 当館蔵全写楽9点特別公開 水田コレクション精華展

会 期：10月31日[土]～11月3日[火・祝]
内 容：城西大学創立50周年を記念し、年間を通して開催してきました展覧会の最終章として、水田コレクションの中から選りすぐりの名品をご紹介します。当館蔵東洲斎写楽による作品全9点特別公開のほか、近世初期風俗画の優品《賀茂競馬図屏風》をはじめ、菱川師宣、鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、葛飾北斎など浮世絵の歴史にその名を残す絵師たちの作品、浮世絵の流れをくむ近代美人画作品も併せて展示し、華やかな名品の数々をご覧ください。

◆城西大学創立50周年記念 新薬用植物園開園記念 薬用植物園便り

会 期：2016年3月8日[水]～5月7日[土]
内 容：城西大学創立50周年記念事業の一環として薬用植物園が装いを新たに開園しました。本展では、薬用植物園に栽培されている薬用植物について写真と解説でご覧いただき、併せて、生活の中に取り入れられた身近な薬草についてもご紹介。薬用植物の知られざる魅力をお楽しみいただきました。



「国際的な産学連携の推進を」



駐日アイルランド大使館
アン・バリントン閣下

私はアイルランドが学校法人城西大学と良好な関係を築くことができ、大変光栄に思っております。城西は世界に目を向け、国際的な展開を目指しています。それはまさに将来成功する大学のあるべき姿といえるでしょう。

城西とアイルランドの関係は、2013年12月にアイルランドの首相が訪日し安倍首相と面会した際に発表された、学生交流活動の促進を含む、様々な事柄に関する二国間共同宣言を契機として始まりました。

昨年2015年3月には、リムリック大学と城西大学は、ブレンダン・ハウリン アイルランド経済再生・公共支出改革大臣、水田宗子理事長立会いのもと、学術交流協定を締結しました。既に、リムリック大学の学生が交換留学生として城西国際大学に学んでおり、城西大学・城西国際大学の学生によるリムリック大学での研修も実施されています。

これに加え、住友化学株式会社は、アイルランドから城西に留学してきた学生をインターンとして受け入れて下さるプログラムを設立してくださいました。このプログラムが今後大きく育っていくことを楽しみにしています。

城西大学とリムリック大学の相互交流を通じて両国がより一層理解し合えるようになった事を、大変うれしく思います。

「地域に根ざしたグローバルな人材の育成を」



衆議院議員
森 英介氏

城西国際大学の東金キャンパスには、世界の国々の国旗がへんぼんと翻っています。

おそらく親しく交流している国の国旗と推察されますが、数えてみると、その数30ヶ国近くに上ります。また、提携関係であったり、共同プロジェクトを実施している世界の大学は、160校を超えると伺っております。

これだけ広く世界に目を向け、交流している大学というのは、あまりないのではないのでしょうか。それでいて、城西国際大学ならびに城西大学では、地域との関係を大変大切にしております。現に、城西国際大学のある千葉県の東金、鴨川、そして城西大学のある埼玉県のある坂戸においても、それら地域にとってなくてはならぬ存在になっており、地元民からも大きな信頼と期待を寄せられるに至っております。

このことから「地域に立脚した国際的総合大学」を目指す城西大学及び城西国際大学のダイナミックな取組みが着々と結実しつつあるように感じます。

世界各地で地域に根ざして人々の為に大いに貢献してくれる人材がこの大学から輩出されることを期待しております。

「産・学連携による実践的な国際教育を」



住友化学株式会社
相談役
米倉 弘昌氏

グローバル化が進むにつれ、異なる文化や価値観を持つ様々な国や地域の人たちと知恵を出し合い、協力しながら仕事をしていくという力が、より一層求められるようになっております。こうしたなか、城西大学では、国際交流、特に世界各国の有力大学との交流活動に大変熱心に取り組んでおられます。2015年3月には、アイルランドのリムリック大学との間で交流協定書を締結され、両大学間の交換留学に加え、城西大学に留学するリムリック大学の学生を日本企業が受け入れる新たなインターンシッププログラムをスタートさせることを発表されました。住友化学はパートナー企業としてこの取り組みに参画し、2016年からリムリック大学の学生を対象にインターンシップの機会を提供してまいります。

弊社といたしましては、今後も城西大学によるグローバル人材の育成に微力ながら貢献していくとともに、産・学連携による国際教育の促進に積極的に取り組んでまいります。

「歴史的・文化的多様性を受け入れる力を」



日本経済研究センター
特別顧問
杉田 亮毅氏

城西大学の教育方針で特に注目、期待しているのは「グローバル人材の育成」です。

日本の主要企業の多くは、生産の50~60%を海外、利益にいたっては、70~80%を海外に依存しています。人口減少や潜在成長率を限りなくゼロ近傍へ低下させる等で、現在日本企業は生き残りの為活路を海外に求めています。

グローバルに活躍するには、英語、中国語等語学能力は不可欠です。しかし語学は、意志疎通の手段であって全てではありません。勤務地の外国人、あるいは訪日する外国人に、日本の文化や歴史を説明できる素養を持つことが重要です。グローバル人材は同時に、相手の主張にも耳を傾け、その歴史的、文化的背景を理解する能力が必要です。その為には、学生が在学中に少なくとも半年ないし1年海外留学することがとても大切なことだと思います。また、外国からの留学生と日本人学生の交流をできるだけ活発にする大学側の工夫が欠かせません。

城西大学ならびに城西国際大学のこれからの「グローバル人材の育成」の深化、発展に一層期待しております。

編集後記

2015年度版学校法人城西大学社会貢献活動報告書をお届けできることを大変うれしく思います。本学がこの1年間に取り組んださまざまな社会貢献活動をキーワードごとに分類して紹介いたしましたので、どうぞご覧ください。また、美術館関係と建築関係については、年度を超えて掲載してあります。

2008年に初めて社会貢献活動報告を作成して以降、毎年の作成作業を通じ、学校法人全体として活動内容を把握してその意義の確認をするとともに、反省や工夫を次年度へ活かすことができました。また、昨年度版までをご覧頂いた多くの方から、本学が行ってきた社会貢献活動に関して励ましやお褒めの声をいただいております。

今後も、大学を取り巻く方々との連携を取りながら、よりいっそうの地域・社会・国際貢献活動に取り組んでまいります。

この報告書により城西大学・城西国際大学・城西短期大学の社会貢献活動にご理解をいただくとともに、皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

学校法人城西大学 法人本部
社会貢献推進チーム
社会貢献活動報告書作成チーム

〈表紙デザインについて〉

紀尾井町キャンパス1号棟 創立者の句碑

— 寒椿 眼に沁む 朝予算 成る

2004年に竣工した紀尾井町キャンパス入口に、創立40周年記念事業の一環として建立された創立者水田三喜男先生の句碑があります。石菫の花、雪ノ下、玉龍が、美しく寄せ植えされる中「寒椿眼に沁む朝予算」と刻まれた句碑を、永田町に近い土地柄もあってか、多くの方が足を止め、説明板に見入っています。

創立者は、1946年(昭和21年)に戦後発の衆議院選挙で初当選し、以来30年にわたって、通産大臣・大蔵大臣を歴任するなど、日本の経済復興と成長に尽力した政治家としてよく知られていますが、折衝を終え徹夜で予算がなった日の朝に目にした寒椿は鮮烈で、ここに苦勞と安堵がよくあらわれています。

国家のために尽くした創立者が、世界にはばたく人材育成を願って創立した学校法人城西大学も今年、創立50周年を迎えました。さまざまな記念行事を通じて、創立者の夢と希望、理念に立ち返り、大学のさらなる発展に向けて、心を一つにいたしました。

